

公 營 企 業 会 計

令和元年度姫路市公営企業会計決算審査意見

第1 審査の対象

- 1 令和元年度 姫路市水道事業会計
- 2 令和元年度 姫路市都市開発整備事業会計
- 3 令和元年度 姫路市下水道事業会計

第2 審査の期間

令和2年6月1日から同年7月7日まで

第3 審査の方法

- 1 この審査では、審査の対象になった各会計決算、証書類、事業報告書及び附属書類の記載事項が地方公営企業法その他関係法令に準拠して作成されているか、決算書類の計数は関係諸帳簿と合致しているか、財務諸表が各公営企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、また、各公営企業の経営活動が合理的かつ能率的に行われているかについて審査するとともに、対前年度比較により事業の推移を把握し計数の分析を行い、経営内容を検討しました。
- 2 審査に当たっては、決算・事業報告書及び附属書類の計数を総勘定元帳その他会計帳票、証拠書類と照合し、関係責任者に対する質疑等通常の監査手続を採用しました。

第4 審査の結果

- 1 審査対象の各会計決算、証書類、事業報告書、附属書類の記載様式及び記載事項は、地方公営企業法その他関係法令に準拠して作成されており、その計数は関係諸帳簿と合致していることを確認しました。

なお、予算の執行、財務に関する事務処理は、その一部については定期監査等で指摘してきたとおりですが、おおむね良好であると認めました。

また、財務諸表は各公営企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認めました。
- 2 各公営企業の業務実績、予算の執行状況、経営成績及び財政状態等審査の概要は、次に述べるとおりです。

水道事業会計

水道事業は、住民生活に必要な不可欠な「水」を提供する大切なライフラインです。

安全で良質な水を安定的に供給するためには、老朽化した水道施設や管路の更新・耐震化を計画的に進めていくことが重要です。

1 業務実績

水道事業の業務実績について、最近5箇年を比較すると、第1表のとおりです。

第1表 業務実績表

| 項 目 | 単 位 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 前年度比較 | |
|---------------|----------------|------------|------------|------------|------------|------------|---------|-------|
| | | | | | | | 増 減 数 | 増減率 |
| 人 口 | 人 | 540,345 | 538,960 | 537,409 | 536,192 | 534,648 | △1,544 | △ 0.3 |
| 給 水 人 口 | 人 | 538,293 | 536,936 | 535,414 | 534,224 | 532,708 | △1,516 | △ 0.3 |
| 普 及 率 | % | 99.6 | 99.6 | 99.6 | 99.6 | 99.6 | 0.0 | - |
| 給 水 件 数 | 件 | 245,595 | 247,813 | 249,999 | 252,375 | 255,530 | 3,155 | 1.3 |
| 年 間 配 水 量 | m ³ | 62,237,223 | 61,924,921 | 60,981,038 | 59,710,921 | 60,510,085 | 799,164 | 1.3 |
| 自 己 水 源 | m ³ | 40,651,781 | 40,477,887 | 39,494,821 | 38,309,452 | 39,012,231 | 702,779 | 1.8 |
| 県 受 水 | m ³ | 19,861,700 | 19,800,925 | 19,809,250 | 19,807,150 | 19,877,133 | 69,983 | 0.4 |
| そ の 他 受 水 | m ³ | 1,723,742 | 1,646,109 | 1,676,967 | 1,594,319 | 1,620,721 | 26,402 | 1.7 |
| 年 間 有 収 水 量 | m ³ | 55,841,110 | 55,650,290 | 55,445,070 | 55,035,931 | 55,047,668 | 11,737 | 0.0 |
| 年 間 無 効 水 量 | m ³ | 4,428,871 | 4,637,914 | 4,202,767 | 3,414,434 | 3,897,619 | 483,185 | 14.2 |
| 1 日 配 水 能 力 | m ³ | 250,684 | 250,684 | 250,684 | 250,684 | 250,684 | 0 | 0.0 |
| 1 日 平 均 配 水 量 | m ³ | 170,047 | 169,657 | 167,071 | 163,592 | 165,328 | 1,736 | 1.1 |
| 1 日 最 大 配 水 量 | m ³ | 193,333 | 189,133 | 185,133 | 180,000 | 177,069 | △2,931 | △ 1.6 |
| 有 収 率 | % | 89.7 | 89.9 | 90.9 | 92.2 | 91.0 | △1.2 | - |
| 施 設 利 用 率 | % | 67.8 | 67.7 | 66.6 | 65.3 | 66.0 | 0.7 | - |
| 最 大 稼 動 率 | % | 77.1 | 75.4 | 73.9 | 71.8 | 70.6 | △1.2 | - |
| 負 荷 率 | % | 88.0 | 89.7 | 90.2 | 90.9 | 93.4 | 2.5 | - |
| 職 員 数 | 人 | 123(12) | 122(9) | 120(8) | 118(11) | 118(10) | 0(△1) | - |

(注) 1 職員数には管理者を含みます。

2 () 内は、再任用短時間勤務職員数について外書きしています。

3 人口は、住民基本台帳人口です。

4 数値の意義は、次のとおりです。

$$\cdot \text{普及率} = \frac{\text{給水人口}}{\text{人口}} \times 100 \quad \cdot \text{最大稼動率} = \frac{\text{1日最大配水量}}{\text{1日配水能力}} \times 100$$

$$\cdot \text{有収率} = \frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間配水量}} \times 100 \quad \cdot \text{負荷率} = \frac{\text{1日平均配水量}}{\text{1日最大配水量}} \times 100$$

$$\cdot \text{施設利用率} = \frac{\text{1日平均配水量}}{\text{1日配水能力}} \times 100$$

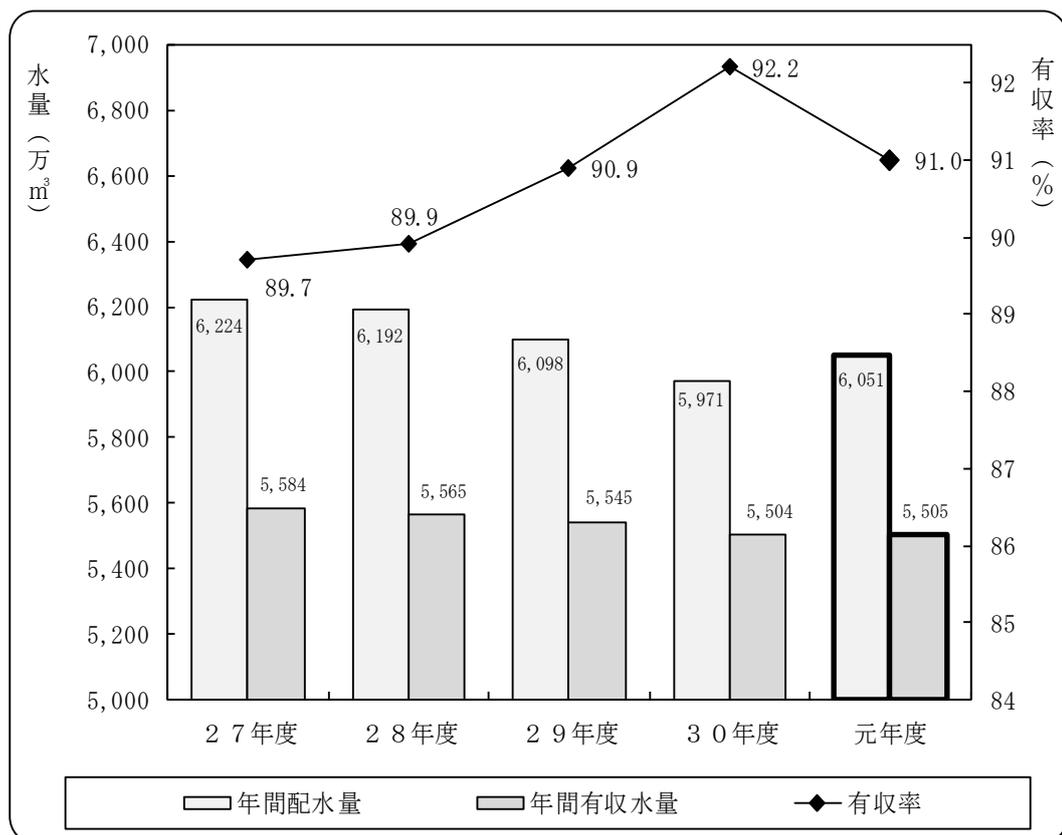
当年度における給水人口は 532,708 人で、前年度に比べ 1,516 人減少し、人口に対する普及率は 99.6%となっています。

年間配水量は 60,510,085 m³で、前年度に比べ 799,164 m³・1.3%増加し、年間有収水量は 55,047,668 m³で、前年度に比べ 11,737 m³増加しています。有収率は 91.0%となり、前年度に比べ 1.2 ポイント低下しています。施設利用率は 66.0%で、前年度に比べ 0.7 ポイント上昇しています。

なお、年間配水量のうち兵庫県からの受水量は 19,877,133 m³となり、前年度に比べ 69,983 m³増加しています。この県受水量は、平成 27 年度からほぼ一定で大きな変化はありません。

最近 5 箇年の年間配水量、年間有収水量及び有収率の推移をグラフで示すと、第 1 図のとおりです。

第 1 図 年間配水量、年間有収水量及び有収率の推移



年間配水量及び年間有収水量は、前年度に比べ若干増加しましたが、給水人口の減少や節水機器の普及及び事業所における節水対策等により漸減傾向にあります。

有収率は、平成 27 年度 89.7%から前年度までは上昇しましたが、当年度は前年度に比べて 1.2 ポイント低下しており、継続的に漏水調査や老朽管の更新工事が必要です。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

収益的収支の予算執行状況は、第2表のとおりです。

第2表 収益的収支の予算執行状況

(単位 千円、%)

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 執行率 | 予算額に対する 決算額の増減 又は不用額 |
|-----------|------------|------------|-------|----------------------------|
| 収 益 的 収 入 | 11,343,750 | 11,551,230 | 101.8 | 207,480 |
| 営 業 収 益 | 10,402,832 | 10,581,101 | 101.7 | 178,269 |
| 営 業 外 収 益 | 940,918 | 970,129 | 103.1 | 29,211 |
| 特 別 利 益 | — | — | — | — |
| 収 益 的 支 出 | 10,316,602 | 9,644,380 | 93.5 | 672,222 |
| 営 業 費 用 | 9,819,385 | 9,300,147 | 94.7 | 519,238 |
| 営 業 外 費 用 | 477,217 | 344,061 | 72.1 | 133,156 |
| 特 別 損 失 | — | 172 | — | △172 |
| 予 備 費 | 20,000 | — | — | 20,000 |
| 収 益 的 収 支 | 1,027,148 | 1,906,850 | — | — |

(注) 1 収益的収入の決算額には、仮受消費税及び地方消費税 842,365 千円を含みます。

2 収益的支出の決算額には、仮払消費税及び地方消費税 413,390 千円を含みます。

収益的収入の決算額は 11,551,230 千円で、予算額に対し 101.8%の執行率となっています。

収益的支出の決算額は 9,644,380 千円で、予算額に対し 93.5%の執行率となっており 672,222 千円の不用額が生じています。不用額は、減価償却費等 276,555 千円、動力費 75,989 千円、工事関係費 70,626 千円等です。

この結果、収益的収支は 1,906,850 千円の黒字となっています。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収支の予算執行状況は、第3表のとおりです。

第3表 資本的収支の予算執行状況

(単位 千円、%)

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 執行率 | 翌 年 度 繰 越 額 | 予算額に対する 決算額の増減 又は不用額 |
|-----------------|------------|------------|-------|----------------|----------------------------|
| 資 本 的 収 入 | 2,857,291 | 2,264,977 | 79.3 | — | △592,314 |
| 企 業 債 | 969,000 | 969,000 | 100.0 | — | 0 |
| 国 県 補 助 金 | 158,600 | 158,589 | 100.0 | — | △11 |
| 他 会 計 出 資 金 | 1,124,094 | 667,193 | 59.4 | — | △456,901 |
| 工 事 負 担 金 | 605,597 | 470,166 | 77.6 | — | △135,431 |
| 固 定 資 産 売 却 代 金 | — | 29 | — | — | 29 |
| 資 本 的 支 出 | 7,804,844 | 6,466,805 | 82.9 | 994,021 | 344,018 |
| 建 設 改 良 費 | 6,655,053 | 5,318,146 | 79.9 | 994,021 | 342,886 |
| 企 業 債 償 還 金 | 1,141,678 | 1,141,677 | 100.0 | — | 1 |
| 投 資 | 1,102 | 972 | 88.2 | — | 130 |
| 返 還 金 | 6,011 | 6,010 | 100.0 | — | 1 |
| 予 備 費 | 1,000 | — | — | — | 1,000 |
| 資 本 的 収 支 | △4,947,553 | △4,201,828 | — | — | — |

(注) 1 資本的収入の決算額には、仮受消費税及び地方消費税 23,756 千円を含みます。

2 資本的支出の決算額には、仮払消費税及び地方消費税 418,956 千円を含みます。

資本的収入の決算額は 2,264,977 千円で、予算額に対し 79.3%の執行率となっています。

資本的支出の決算額は 6,466,805 千円で、予算額に対し 82.9%の執行率となっており、翌年度に 994,021 千円を繰り越した結果 344,018 千円の不用額が生じています。

建設改良費のうち主なものは、配水管布設及び布設替工事(延長 22,600m) 3,979,274 千円、甲山低区第2配水池新設工事 676,827 千円、保城浄水場非常用発電機設備他更新工事 114,996 千円です。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 4,201,828 千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 395,201 千円、繰越工事資金 26,574 千円及び過年度分損益勘定留保資金 3,780,053 千円で補填しています。

3 経営成績

(1) 経営収支

経営収支の状況は、第4表のとおりです。

第4表 経営収支の状況

(単位 千円、%)

| 区 分 | 30年度 | 元年度 | 前年度比較 | |
|-------------------------|-------------------|-------------------|-----------------|--------------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 収 益 A | 10,767,396 | 10,708,865 | △58,531 | △0.5 |
| 営業収益 | 9,782,252 | 9,740,042 | △42,210 | △0.4 |
| 給水収益 | 9,040,706 | 9,050,913 | 10,206 | 0.1 |
| 分担金 | 363,448 | 326,802 | △36,646 | △10.1 |
| 他会計負担金 | 43,200 | 44,820 | 1,620 | 3.8 |
| その他の営業収益 | 334,898 | 317,508 | △17,391 | △5.2 |
| 営業外収益 | 985,143 | 968,823 | △16,320 | △1.7 |
| 受取利息 | 1,715 | 1,523 | △192 | △11.2 |
| 他会計補助金 | 34,982 | 23,109 | △11,873 | △33.9 |
| 長期前受金戻入 | 921,686 | 912,182 | △9,503 | △1.0 |
| 引当金戻入 | 9,961 | 2,928 | △7,033 | △70.6 |
| 雑収益 | 16,800 | 29,081 | 12,281 | 73.1 |
| 費 用 B | 9,036,098 | 9,205,765 | 169,667 | 1.9 |
| 営業費用 | 8,695,851 | 8,886,844 | 190,993 | 2.2 |
| 人件費 | 904,777 | 954,961 | 50,184 | 5.5 |
| 工事関係費 | 341,092 | 385,895 | 44,804 | 13.1 |
| 動力費 | 288,966 | 281,332 | △7,634 | △2.6 |
| 薬品費 | 63,633 | 72,793 | 9,160 | 14.4 |
| 受水費 | 2,655,423 | 2,658,999 | 3,577 | 0.1 |
| 修繕費 | 296,500 | 407,530 | 111,030 | 37.4 |
| その他物件費 | 1,039,618 | 1,034,031 | △5,587 | △0.5 |
| 減価償却費等 | 3,105,842 | 3,091,301 | △14,540 | △0.5 |
| 営業外費用 | 340,248 | 318,921 | △21,326 | △6.3 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | 332,894 | 311,310 | △21,584 | △6.5 |
| 雑支出 | 7,354 | 7,612 | 258 | 3.5 |
| 経常損益(A-B) C | 1,731,298 | 1,503,100 | △228,198 | △13.2 |
| 特別利益 D | 320 | — | △320 | 皆減 |
| 特別損失 E | 27 | 172 | 145 | 537.0 |
| 当年度純損益(C+D-E) F | 1,731,590 | 1,502,928 | △228,662 | △13.2 |
| 前年度繰越利益剰余金 G | — | — | — | — |
| 当年度未処分利益剰余金(F+G) | 1,731,590 | 1,502,928 | △228,662 | △13.2 |
| 経常収支比率(A/B×100) | 119.2 | 116.3 | △2.9 | — |

当年度は経常利益が 1,503,100 千円であり、純利益は 1,502,928 千円となっています。経常収支比率は 116.3%で、前年度に比べ 2.9 ポイント低下しています。

ア 収益

当年度の収益は 10,708,865 千円で、前年度に比べ 58,531 千円・0.5%減少しています。

これは、営業収益で 42,210 千円・0.4%、営業外収益で 16,320 千円・1.7%それぞれ減少したためです。

営業収益の減少は、主として有収水量の増加により給水収益で 10,206 千円・0.1%増加したものの、分担金で 36,646 千円・10.1%、その他の営業収益で 17,391 千円・5.2%それぞれ減少したためです。

営業外収益の減少は、主として雑収益で 12,281 千円・73.1%増加したものの、他会計補助金で 11,873 千円・33.9%、長期前受金戻入で 9,503 千円・1.0%、引当金戻入で 7,033 千円・70.6%それぞれ減少したためです。

イ 費用

当年度の費用は 9,205,765 千円で、前年度に比べ 169,667 千円・1.9%増加しています。

これは、営業外費用で 21,326 千円・6.3%減少したものの、営業費用で 190,993 千円・2.2%増加したためです。

営業外費用の減少は、主として支払利息及び企業債取扱諸費で 21,584 千円・6.5%減少したためです。

営業費用の増加は、主として減価償却費等で 14,540 千円・0.5%減少したものの、修繕費で 111,030 千円・37.4%、人件費で 50,184 千円・5.5%、工事関係費で 44,804 千円・13.1%それぞれ増加したためです。

(2) 収益、費用及び経常損益の推移

最近5箇年の収益、費用及び経常損益の推移は第5表のとおりであり、グラフで示すと第2図のとおりです。

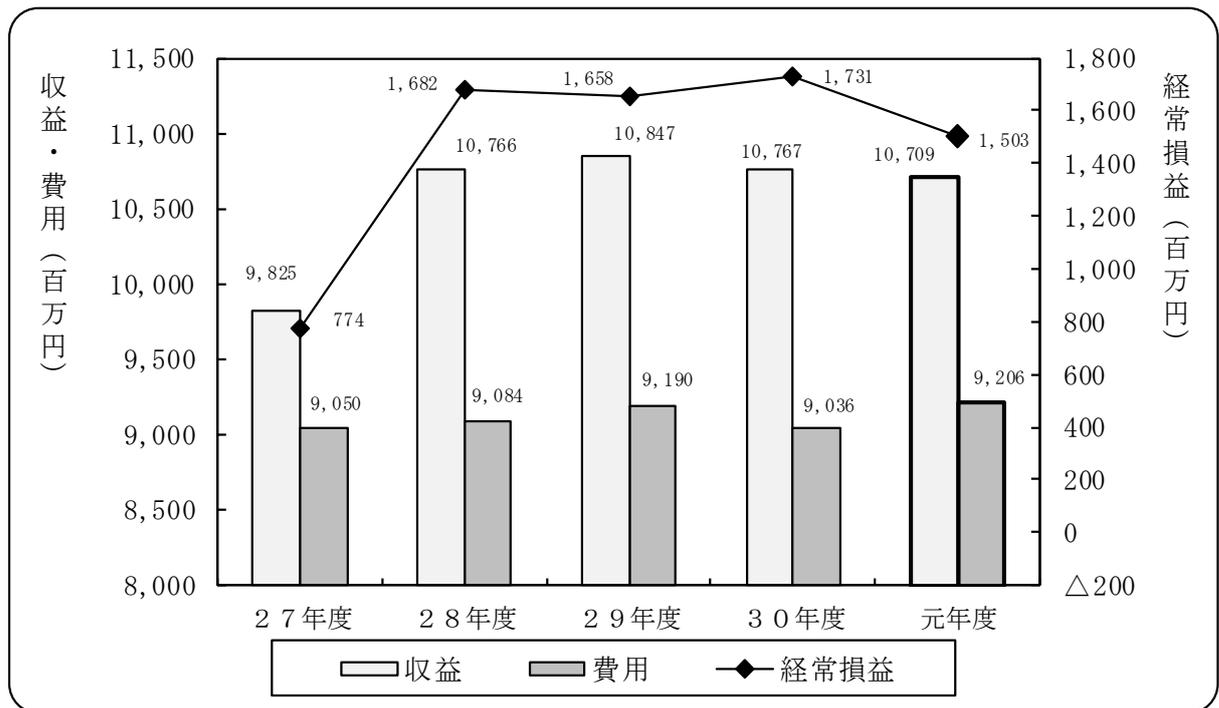
第5表 収益、費用及び経常損益の推移

(単位 千円)

| 区 分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 収 益 | 9,824,598 (8,899,430) | 10,765,668 (9,843,351) | 10,847,204 (9,921,701) | 10,767,396 (9,845,710) | 10,708,865 (9,796,683) |
| 費 用 | 9,050,333 | 9,084,029 | 9,189,538 | 9,036,098 | 9,205,765 |
| 経常損益 | 774,265 (△150,903) | 1,681,640 (759,323) | 1,657,667 (732,163) | 1,731,298 (809,612) | 1,503,100 (590,918) |

(注) () 内は長期前受金戻入を除きます。

第2図 収益、費用及び経常損益の推移



当年度の経常損益は1,503,100千円の黒字で、非現金収入である長期前受金戻入を除いても590,918千円の黒字となりましたが、前年度と比べると減収となっています。

(3) 供給単価及び給水原価

有収水量 1 m³当たりの供給単価及び給水原価の推移は第6表のとおりであり、グラフで示すと第3図のとおりです。

第6表 給水原価及び供給単価の推移

(単位 円)

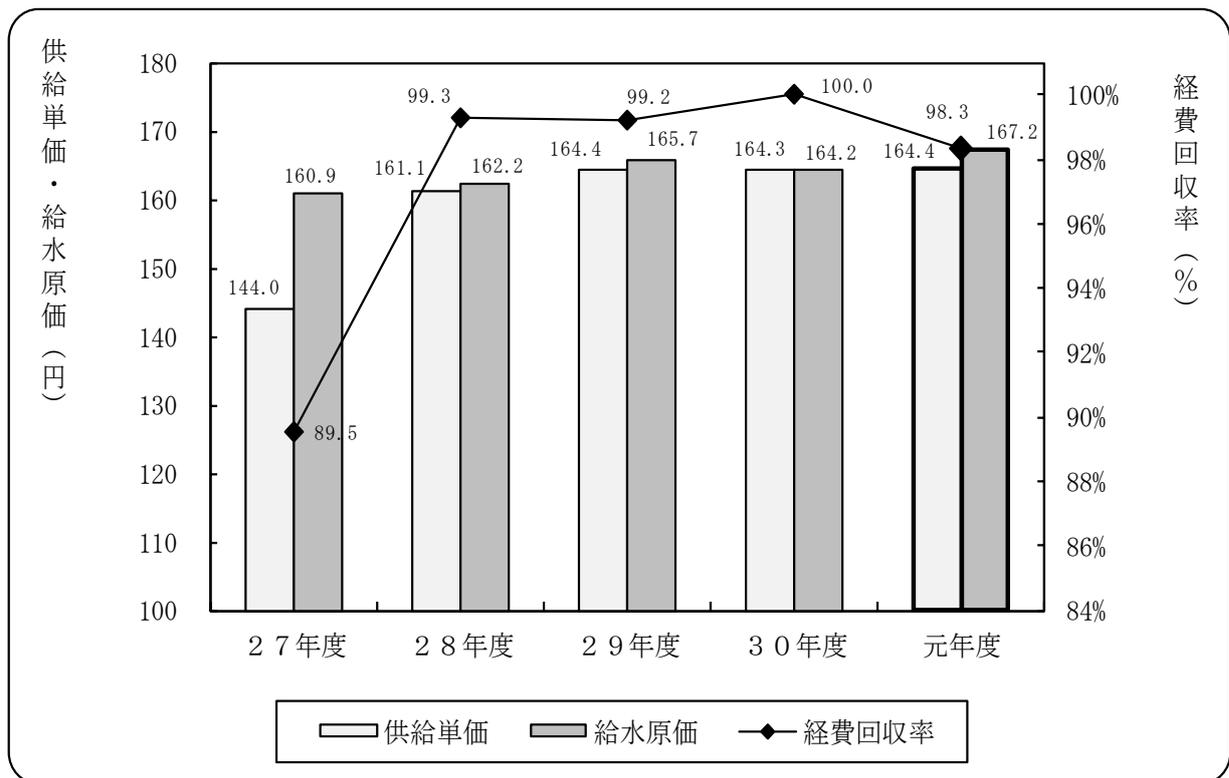
| 区 分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 供給単価 | 144.00 | 161.09 | 164.37 | 164.27 | 164.42 |
| 給水原価 | 160.86 | 162.21 | 165.74 | 164.19 | 167.23 |
| 経費回収率 | 89.5% | 99.3% | 99.2% | 100.0% | 98.3% |

(注) 1 費用には受託工事費、特別損失を含みません。

2 数値の意義は、次のとおりです。

・ 1 m³当たり供給単価 = $\frac{\text{給水収益}}{\text{有収水量}}$ ・ 1 m³当たり給水原価 = $\frac{\text{費用}}{\text{有収水量}}$

第3図 給水原価及び供給単価の推移



1 m³当たりの供給単価を給水原価で割った経費回収率は 98.3%で、前年度に比べ 1.7ポイント低下しています。

4 財政状態

当年度末の貸借対照表を前年度末のそれと比較すると、第7表のとおりです。

第7表 比較貸借対照表

(単位 千円、%)

| 区 分 | 30年度末 | | 元年度末 | | 前年度比較 | |
|---------------|-------------------|--------------|-------------------|--------------|------------------|------------|
| | 金額 | 構成比率 | 金額 | 構成比率 | 増減額 | 増減率 |
| 資 産 | 77,374,712 | 100.0 | 80,307,859 | 100.0 | 2,933,147 | 3.8 |
| 1 固定資産 | 69,125,962 | 89.3 | 71,546,815 | 89.1 | 2,420,853 | 3.5 |
| (1) 有形固定資産 | 67,083,437 | 86.7 | 69,517,527 | 86.6 | 2,434,090 | 3.6 |
| (2) 無形固定資産 | 185,332 | 0.2 | 171,124 | 0.2 | △14,209 | △7.7 |
| (3) 投資その他の資産 | 1,857,192 | 2.4 | 1,858,164 | 2.3 | 972 | 0.1 |
| イ 投資有価証券 | 999,710 | 1.3 | 999,710 | 1.2 | 0 | 0.0 |
| ロ 基金 | 857,482 | 1.1 | 858,454 | 1.1 | 972 | 0.1 |
| 2 流動資産 | 8,248,750 | 10.7 | 8,761,044 | 10.9 | 512,295 | 6.2 |
| (1) 現金及び預金 | 6,209,710 | 8.0 | 6,521,460 | 8.1 | 311,750 | 5.0 |
| (2) 未収金 | 1,818,052 | 2.3 | 2,093,289 | 2.6 | 275,238 | 15.1 |
| 貸倒引当金 | △88,211 | △0.1 | △69,839 | △0.1 | 18,372 | — |
| (3) 貯蔵品 | 75,614 | 0.1 | 71,826 | 0.1 | △3,788 | △5.0 |
| (4) 前払金 | 228,900 | 0.3 | 142,200 | 0.2 | △86,700 | △37.9 |
| (5) その他流動資産 | 4,684 | 0.0 | 2,108 | 0.0 | △2,577 | △55.0 |
| 負債及び資本 | 77,374,712 | 100.0 | 80,307,859 | 100.0 | 2,933,147 | 3.8 |
| 負 債 | 39,413,997 | 50.9 | 40,177,022 | 50.0 | 763,025 | 1.9 |
| 3 固定負債 | 18,723,294 | 24.2 | 18,702,837 | 23.3 | △20,457 | △0.1 |
| (1) 企業債 | 17,423,961 | 22.5 | 17,259,495 | 21.5 | △164,466 | △0.9 |
| (2) 引当金 | 1,299,333 | 1.7 | 1,443,342 | 1.8 | 144,009 | 11.1 |
| イ 退職給付引当金 | 1,040,863 | 1.3 | 1,070,692 | 1.3 | 29,829 | 2.9 |
| ロ 特別修繕引当金 | 258,470 | 0.3 | 372,650 | 0.5 | 114,180 | 44.2 |
| 4 流動負債 | 1,890,963 | 2.4 | 2,350,979 | 2.9 | 460,016 | 24.3 |
| (1) 企業債 | 1,141,677 | 1.5 | 1,133,466 | 1.4 | △8,212 | △0.7 |
| (2) 未払金 | 490,845 | 0.6 | 931,991 | 1.2 | 441,146 | 89.9 |
| (3) 前受金 | 30,882 | 0.0 | 4,566 | 0.0 | △26,316 | △85.2 |
| (4) 引当金 | 102,432 | 0.1 | 150,942 | 0.2 | 48,509 | 47.4 |
| イ 賞与等引当金 | 80,102 | 0.1 | 81,542 | 0.1 | 1,439 | 1.8 |
| ロ 特別修繕引当金 | 22,330 | 0.0 | 69,400 | 0.1 | 47,070 | 210.8 |
| (5) その他流動負債 | 125,127 | 0.2 | 130,015 | 0.2 | 4,888 | 3.9 |
| 5 繰延収益 | 18,799,740 | 24.3 | 19,123,206 | 23.8 | 323,466 | 1.7 |
| (1) 長期前受金 | 18,637,389 | 24.1 | 18,806,240 | 23.4 | 168,851 | 0.9 |
| (2) 長期前受金仮勘定 | 162,352 | 0.2 | 316,966 | 0.4 | 154,615 | 95.2 |
| 資 本 | 37,960,715 | 49.1 | 40,130,837 | 50.0 | 2,170,122 | 5.7 |
| 6 資本金 | 34,567,274 | 44.7 | 36,156,153 | 45.0 | 1,588,879 | 4.6 |
| 7 剰余金 | 3,393,440 | 4.4 | 3,974,684 | 4.9 | 581,243 | 17.1 |
| (1) 資本剰余金 | 172,255 | 0.2 | 172,255 | 0.2 | 0 | 0.0 |
| (2) 利益剰余金 | 3,221,186 | 4.2 | 3,802,429 | 4.7 | 581,243 | 18.0 |
| イ 建設改良積立金 | 1,489,595 | 1.9 | 2,299,500 | 2.9 | 809,905 | 54.4 |
| ロ 当年度末処分利益剰余金 | 1,731,590 | 2.2 | 1,502,929 | 1.9 | △228,662 | △13.2 |

(注) 1 年度末における有形固定資産の減価償却累計額は、83,760,413千円です。

2 年度末における長期前受金の収益化累計額は、26,345,257千円です。

(1) 資産

資産総額は 80,307,859 千円で、前年度末に比べ 2,933,147 千円・3.8%増加しています。

これは、固定資産で 2,420,853 千円・3.5%、流動資産で 512,295 千円・6.2%それぞれ増加したためです。

固定資産の増加は、主として有形固定資産で 2,434,090 千円・3.6%増加したことによるものです。

流動資産の増加は、主として前払金で 86,700 千円・37.9%減少したものの、現金及び預金で 311,750 千円・5.0%、未収金で 275,238 千円・15.1%それぞれ増加したことによるものです。

(2) 負債

負債総額は 40,177,022 千円で、前年度末に比べ 763,025 千円・1.9%増加しています。

これは、固定負債で 20,457 千円・0.1%減少したものの、流動負債で 460,016 千円・24.3%、繰延収益で 323,466 千円・1.7%それぞれ増加したためです。

固定負債の減少は、引当金で 144,009 千円・11.1%増加したものの、企業債で 164,466 千円・0.9%減少したためです。

流動負債の増加は、主として前受金で 26,316 千円・85.2%減少したものの、未払金で 441,146 千円・89.9%、引当金で 48,509 千円・47.4%それぞれ増加したためです。

繰延収益の増加は、長期前受金で 168,851 千円・0.9%、長期前受金仮勘定で 154,615 千円・95.2%それぞれ増加したことによるものです。

なお、企業債残高の合計は 18,392,961 千円で、前年度末（18,565,638 千円）に比べ 172,677 千円・0.9%減少しています。

(3) 資本

資本総額は 40,130,837 千円で、前年度末に比べ 2,170,122 千円・5.7%増加しています。

これは、資本金で 1,588,879 千円・4.6%、剰余金で 581,243 千円・17.1%それぞれ増加したためです。

資本金の増加は、議会の議決により前年度の未処分利益剰余金 921,686 千円が資本金に組み入れられ、さらに当年度に一般会計等から出資金 667,193 千円を受入れたためです。

剰余金の増加は、すべて利益剰余金の増加によるもので、当年度未処分利益剰余金で 228,662 千円・13.2%減少したものの、建設改良積立金で 809,905 千円・54.4%増加したためです。

(4) 資金収支

当年度の資金増減の状況は、第8表のとおりです。

第8表 運転資本増減表

(単位 千円)

| 区 分 | 30年度末 | 元年度末 | 対前年度増減額 |
|-------------------|-----------|-----------|----------|
| 流 動 資 産 A | 8,248,750 | 8,761,044 | 512,294 |
| 流 動 負 債 等 B | 2,048,618 | 2,660,855 | 612,237 |
| 累 積 資 金 剰 余 額 A-B | 6,200,131 | 6,100,189 | △ 99,942 |

(注) 流動負債等は、流動負債及び固定負債から、それぞれの企業債を除いたものです。

累積資金剰余額は、前年度末に比べ 99,942 千円減少し 6,100,189 千円となっています。この減少の主な要因は流動資産の現金及び預金や未収金などが前年度に比べ 512,294 千円増加したものの、流動負債等の未払金や引当金などが 612,237 千円増加したことによるものです。

(5) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローの状況は、第9表のとおりです。

第9表 キャッシュ・フロー計算表

(単位 千円)

| 区 分 | 30年度末 | 元年度末 | 対前年度増減額 |
|--------------------|-------------|-------------|-----------|
| 業務活動によるキャッシュ・フロー A | 3,908,684 | 3,744,043 | △ 164,641 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー B | △ 4,031,799 | △ 3,884,210 | 147,589 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー C | 678,814 | 451,917 | △ 226,897 |
| 資金増加(減少)額 D=A+B+C | 555,699 | 311,750 | △ 243,949 |
| 資金期首残高 E | 5,654,011 | 6,209,710 | 555,699 |
| 資金期末残高 E+D | 6,209,710 | 6,521,460 | 311,750 |

業務活動によるキャッシュ・フローは 3,744,043 千円のプラスで、前年度に比べ 164,641 千円減少しています。また、投資活動によるキャッシュ・フローは 3,884,210 千円のマイナスで、前年度に比べ 147,589 千円増加し、財務活動によるキャッシュ・フローは 451,917 千円のプラスで、前年度に比べ 226,897 千円減少しています。

この結果、当年度の資金（現金及び預金）期末残高は期首残高に比べ 311,750 千円増加し 6,521,460 千円となっています。

5 むすび

当年度の給水状況をみると、普及率は前年度と同じ 99.6%で、有収率は前年度より 1.2ポイント低下し 91.0%となっています。また、年間有収水量は前年度に比べ 11,737 m³増加し 55,047,668 m³となっています。

経営成績をみると、経常利益は 1,503,100 千円となり、非現金収入科目である長期前受金戻入を除いた経常収支でも 590,918 千円の黒字ですが、経常収支比率は前年度より 2.9ポイント低下し 116.3%となっています。

財政状態では、累積資金剰余額は、前年度末に比べ 99,942 千円減少し 6,100,189 千円となっています。また、資金（現金及び預金）期末残高は前年度と比べ 311,750 千円増加し 6,521,460 千円となっています。

企業債については、借入額の減少等により、当年度末の未償還残高は前年度末より 172,677 千円減少し 18,392,961 千円となっています。

水道事業を取り巻く経営環境は、人口減少社会の到来や節水機器の普及等による料金収入の減少、高度経済成長期に建設された施設・管路の更新費用の増加、大規模地震等の災害対策の必要性により厳しさを増しています。

当年度は、甲山低区第2配水池新設工事や老朽管の布設替工事に取り組んでいますが、本市の主な浄水施設は50年以上経過しており、浄水施設、配水池及び基幹管路の耐震化率は全国平均を下回っています。

本市水道局は、これらの課題に対応し持続可能な水道事業を維持するため、令和2年2月に令和2年度からの10年間の計画として新水道ビジョンを策定しました。その中で、「安全」、「強靱」、「持続」の3つの目標のもと、「浄水・配水施設、水道管路の計画的更新と耐震化」、「災害対策の推進」、「水質管理の強化」及び「経営基盤の強化」などの施策を掲げています。

不足する財源を確保するために令和2年4月より水道料金を平均 12.9%値上げしており、計画に掲げた目標の達成のために、着実な取り組みが求められます。

都市開発整備事業会計

本会計は、住宅地及びえい地を造成して市民に供給する都市開発事業と社会基盤を整備する都市整備事業に区分しています。都市開発事業では、霊苑事業、一般土地事業及び住宅地事業を行い、住宅地事業において、安室地区の住宅用地分譲が完了しました。都市整備事業では、姫路駅周辺都市開発整備事業が平成29年度で終了しており、新たな事業は行われておりません。

1 業務実績

都市開発事業及び都市整備事業の業務実績について、最近5箇年を比較すると、第1表のとおりです。

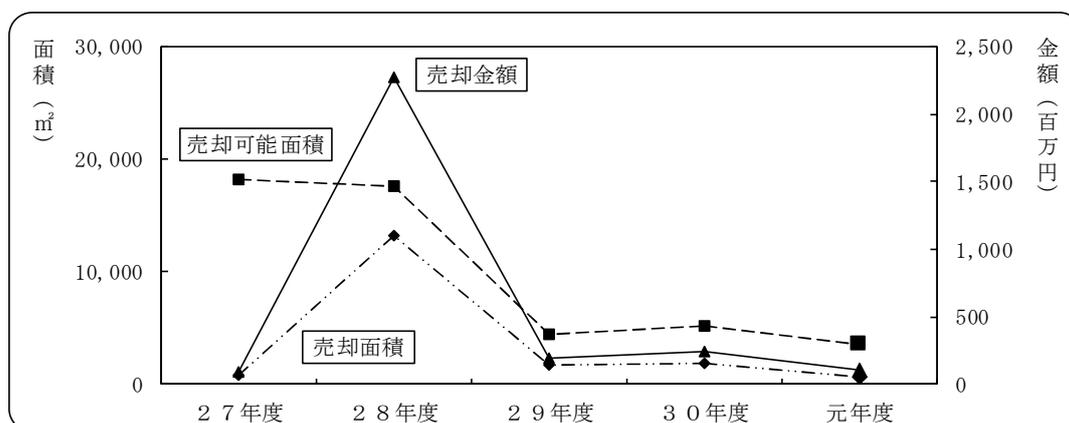
第1表 業務実績表

| 項 目 | 単 位 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 前年度比較 | |
|--------|--------------------|--------|-----------|---------|---------|---------|----------|--------|
| | | | | | | | 増 減 数 | 増 減 率 |
| 売却可能面積 | A m ² | 18,218 | 17,590 | 4,528 | 5,210 | 3,551 | △1,659 | △ 31.8 |
| 売却面積 | B m ² | 794 | 13,272 | 1,702 | 1,941 | 684 | △1,257 | △ 64.8 |
| 売却金額 | 千円 | 97,507 | 2,272,596 | 198,264 | 251,013 | 106,079 | △144,934 | △ 57.7 |
| 売却率 | B/A ×100 % | 4.4 | 75.5 | 37.6 | 37.3 | 19.3 | △ 18.0 | - |
| 売却残面積 | A-B m ² | 17,423 | 4,318 | 2,827 | 3,269 | 2,867 | △401 | △ 12.3 |

当年度の土地の売却面積は 684 m²で、前年度に比べ 1,257 m²・64.8%減少し、売却率は前年度に比べ 18.0 ポイント低下し 19.3%となっています。また、売却金額は 106,079 千円で、前年度に比べ 144,934 千円・57.7%減少しています。これは、主として住宅地事業における安室地区の売却区画数の減少によるものです。

最近5箇年の土地の売却可能面積、売却面積及び売却金額の推移をグラフで示すと、第1図のとおりです。

第1図 土地の売却実績の推移



2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

収益的収支の予算執行状況は、第2表のとおりです。

第2表 収益的収支の予算執行状況

(単位 千円、%)

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 執 行 率 | 予算額に対する 決算額の増減 又は不用額 |
|-----------|---------|---------|-------|----------------------------|
| 収 益 的 収 入 | 151,392 | 111,049 | 73.4 | △40,343 |
| 都市開発事業収益 | 151,382 | 111,040 | 73.4 | △40,342 |
| 営業収益 | 145,500 | 106,079 | 72.9 | △39,421 |
| 営業外収益 | 5,882 | 4,961 | 84.3 | △921 |
| 特別利益 | — | 1 | — | 1 |
| 都市整備事業収益 | 10 | 8 | 84.0 | △2 |
| 営業収益 | — | — | — | — |
| 営業外収益 | 10 | 8 | 84.0 | △2 |
| 収 益 的 支 出 | 149,782 | 96,742 | 64.6 | 53,040 |
| 都市開発事業費用 | 147,082 | 96,742 | 65.8 | 50,340 |
| 営業費用 | 129,062 | 80,251 | 62.2 | 48,811 |
| 営業外費用 | 18,020 | 16,492 | 91.5 | 1,528 |
| 都市整備事業費用 | 700 | — | — | 700 |
| 営業費用 | 700 | — | — | 700 |
| 営業外費用 | — | — | — | — |
| 予 備 費 | 2,000 | — | — | 2,000 |
| 収 益 的 収 支 | 1,610 | 14,307 | — | — |

当年度の収益的収入の決算額は 111,049 千円で、予算額に対し 73.4%の執行率となっています。執行率は、前年度（79.4%）に比べ 6.0 ポイント低下しています。

収益的収入の決算額を事業別にみると、都市開発事業においては 111,040 千円で、予算額に対し 73.4%の執行率となっており 40,342 千円の執行残が生じています。これは、主として霊苑事業でえい地貸付区画数が見込みより少なかったためです。執行率は、前年度（79.4%）に比べ 6.0 ポイント低下しています。

一方、都市整備事業においては、営業収益はなく、営業外収益は土地使用料及び占用料 8 千円です。

収益的支出の決算額は 96,742 千円で、予算額に対し 64.6%の執行率となっており 53,040 千円の不用額が生じています。執行率は、前年度（69.2%）に比べ 4.6 ポイント

低下しています。

収益的支出の決算額を事業別にみると、都市開発事業においては 96,742 千円で、予算額に対し 65.8%の執行率となっており 50,340 千円の不用額が生じています。不用額は、土地売却原価 31,138 千円、一般管理費 17,673 千円等です。執行率は、前年度(69.8%)に比べ 4.0 ポイント低下しています。

一方、都市整備事業においては、事業残地に係る土地施設等管理費の執行はなく 700 千円の不用額が生じています。

収入が支出を上回った結果、収益的収支は 14,307 千円の黒字となっています。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収支の予算執行状況は、第 3 表のとおりです。

第 3 表 資本的収支の予算執行状況

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 執行率 | (単位 千円、%) | |
|-----------------|---------|---------|-------|-------------|----------------------------|
| | | | | 翌 年 度 繰 越 額 | 予算額に対する 決算額の増減 又は不用額 |
| 資 本 的 収 入 | — | — | — | — | — |
| 資 本 的 支 出 | 309,311 | 297,782 | 96.3 | — | 11,529 |
| 都市開発事業資本的支出 | 307,311 | 297,782 | 96.9 | — | 9,529 |
| 建設改良費 | 107,311 | 97,782 | 91.1 | — | 9,529 |
| 投 資 | 200,000 | 200,000 | 100.0 | — | 0 |
| 予 備 費 | 2,000 | — | — | — | 2,000 |
| 資 本 的 収 支 不 足 額 | 309,311 | 297,782 | — | — | 11,529 |

資本的支出の決算額は 297,782 千円で、予算額に対し 96.3%の執行率となっています。翌年度繰越はなく、不用額の主なものは人件費等 8,853 千円です。投資有価証券として地方公共団体金融機構債券を購入したため、執行率は、前年度(31.8%)に比べ 64.5 ポイント上昇しています。

なお、資本的収入はありませんが、これは、新たな企業債の発行又は他会計等からの長期借入を行わなかったためです。

また、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 297,782 千円は、全額を過年度分損益勘定留保資金により補填しています。

3 経営成績

(1) 経営収支

経営収支の状況は、第4表のとおりです。

第4表 経営収支の状況

(単位 千円、%)

| 区 分 | 30年度 | 元年度 | 前年度比較 | |
|-----------------------------|---------|---------|----------|-------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 収 益 A | 255,990 | 111,048 | △144,943 | △56.6 |
| 営 業 収 益 | 251,013 | 106,079 | △144,934 | △57.7 |
| 土 地 売 却 収 益 | 251,013 | 106,079 | △144,934 | △57.7 |
| 営 業 外 収 益 | 4,978 | 4,969 | △9 | △0.2 |
| 受 取 利 息 | 100 | 100 | 1 | 0.5 |
| 雑 収 益 | 4,878 | 4,869 | △9 | △0.2 |
| 費 用 B | 215,454 | 96,742 | △118,712 | △55.1 |
| 営 業 費 用 | 202,092 | 80,251 | △121,841 | △60.3 |
| 土 地 売 却 原 価 | 178,703 | 56,565 | △122,139 | △68.3 |
| 人 件 費 | 10,288 | 9,948 | △340 | △3.3 |
| 一 般 管 理 費 | 11,997 | 12,634 | 638 | 5.3 |
| 減 価 償 却 費 | 1,104 | 1,104 | 0 | 0.0 |
| 営 業 外 費 用 | 13,362 | 16,492 | 3,129 | 23.4 |
| 雑 支 出 | 13,362 | 16,492 | 3,129 | 23.4 |
| 支 払 利 息 及 び 費 | — | — | — | — |
| 企 業 債 取 扱 諸 費 | — | — | — | — |
| 経 常 損 益 (A-B) C | 40,536 | 14,306 | △26,230 | △64.7 |
| 特 別 利 益 D | 1 | 1 | 0 | 0.0 |
| 特 別 損 失 E | — | — | — | — |
| 当 年 度 純 損 益 (C+D-E) F | 40,537 | 14,307 | △26,231 | △64.7 |
| 前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金 G | 20,340 | 60,877 | 40,537 | 199.3 |
| 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金 (F+G) | 60,877 | 75,184 | 14,307 | 23.5 |
| 経 常 収 支 比 率 (A/B×100) | 118.8 | 114.8 | — | — |

当年度は経常利益が14,306千円であり、純利益は14,307千円となっています。

経常収支比率は114.8%で、前年度に比べ4.0ポイント低下したものの、健全経営の目安とされる100%は超えています。

ア 収益

当年度の収益は111,048千円で、前年度に比べ144,943千円・56.6%減少しています。

これは、主として住宅地事業における安室地区の売却区画数の減により、土地売却収益が144,934千円・57.7%減少したためです。

イ 費用

当年度の費用は 96,742 千円で、前年度に比べ 118,712 千円・55.1%減少しています。

これは、主として住宅地事業における安室地区の売却区画数の減により、土地売却原価が 122,139 千円・68.3%減少したためです。

(2) 収益、費用及び純損益の推移

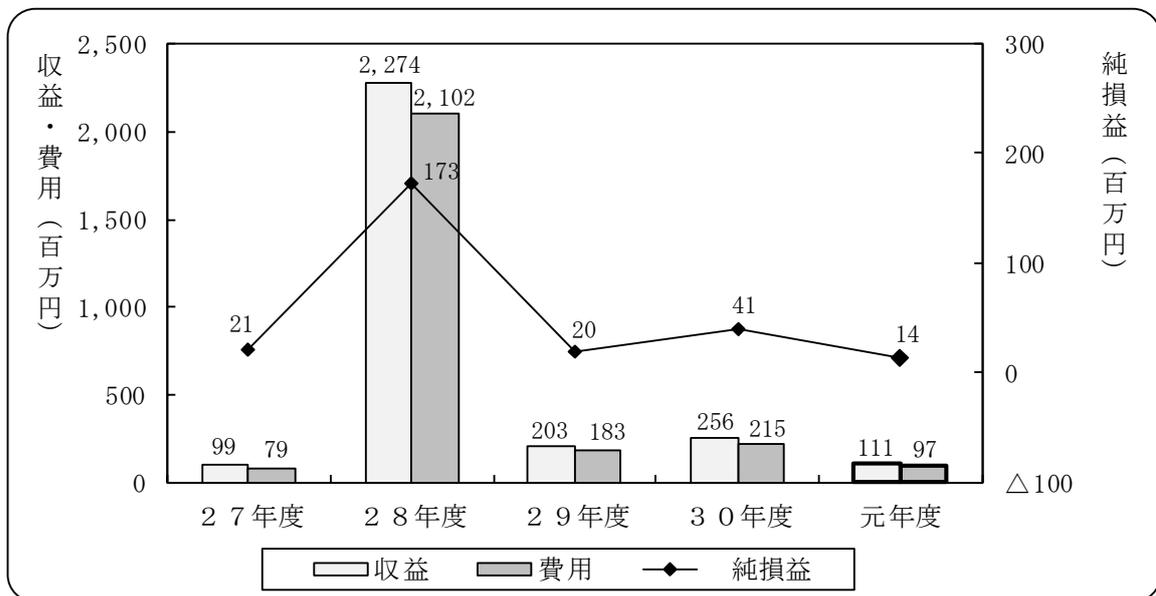
最近5箇年の事業全体の収益、費用及び純損益の推移は第5表のとおりであり、グラフで示すと第2図のとおりです。

第5表 収益、費用及び純損益の推移

(単位 千円)

| 区 分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|-------|--------|-----------|---------|---------|---------|
| 収 益 | 99,239 | 2,274,133 | 203,323 | 255,991 | 111,049 |
| 費 用 | 78,595 | 2,101,553 | 182,983 | 215,454 | 96,742 |
| 純 損 益 | 20,644 | 172,580 | 20,340 | 40,537 | 14,307 |

第2図 収益、費用及び純損益の推移



当年度は住宅地事業による土地売却収益が減少したため、純損益は前年度に比べ 26,230 千円減少しました。

(3) 土地売却収益とその原価

土地売却収益とその原価を事業別にみると、第6表のとおりです。

第6表 事業別土地売却収益及び原価の比較

(単位 m²、千円、%)

| 区 分 | 面 積 | 収 益 A | 原 価 B | 粗 利 益 C=A-B | 利 益 率 C/B×100 |
|-------------|--------|----------|----------|----------------|------------------|
| 都 市 開 発 事 業 | 537.70 | 61,694 | 56,565 | 5,129 | 9.1 |
| 霊 苑 事 業 | 60.00 | 10,896 | 9,221 | 1,675 | 18.2 |
| 住 宅 地 事 業 | 477.70 | 50,798 | 47,344 | 3,454 | 7.3 |
| 計 | 537.70 | 61,694 | 56,565 | 5,129 | 9.1 |

土地売却収益 61,694 千円に対し、土地売却原価は 56,565 千円で 5,129 千円の粗利益が生じています。事業別にみると、利益率は霊苑事業が 18.2%、住宅地事業が 7.3%です。

4 財政状態

当年度末の貸借対照表を前年度末のそれと比較すると、第7表のとおりです。

第7表 比較貸借対照表

(単位 千円、%)

| 区 分 | 30年度末 | | 元年度末 | | 前年度比較 | |
|-------------------|-----------|-------|-----------|-------|----------|---------|
| | 金額 | 構成比率 | 金額 | 構成比率 | 増減額 | 増減率 |
| 資 産 | 5,583,636 | 100.0 | 5,602,822 | 100.0 | 19,186 | 0.3 |
| 1 固 定 資 産 | 615,317 | 11.0 | 906,798 | 16.2 | 291,481 | 47.4 |
| (1) 有 形 固 定 資 産 | 589,373 | 10.6 | 681,958 | 12.2 | 92,585 | 15.7 |
| (2) 無 形 固 定 資 産 | 25,944 | 0.5 | 24,840 | 0.4 | △1,104 | △4.3 |
| (3) 投 資 そ の 他 資 産 | — | — | 200,000 | 3.6 | 200,000 | 皆増 |
| 1-1 土 地 造 成 | 106,328 | 1.9 | 54,960 | 1.0 | △51,368 | △48.3 |
| (1) 完 成 土 地 | 105,528 | 1.9 | 54,960 | 1.0 | △50,568 | △47.9 |
| (2) 建 設 仮 勘 定 | 800 | 0.0 | — | — | △800 | 皆減 |
| 2 流 動 資 産 | 4,861,991 | 87.1 | 4,641,064 | 82.8 | △220,927 | △4.5 |
| (1) 現 金 及 び 預 金 | 4,800,958 | 86.0 | 4,641,037 | 82.8 | △159,921 | △3.3 |
| (2) 未 収 金 | 46,634 | 0.8 | 27 | 0.0 | △46,607 | △99.9 |
| (3) 前 払 金 | 14,400 | 0.3 | — | — | △14,400 | 皆減 |
| 負 債 及 び 資 本 | 5,583,636 | 100.0 | 5,602,822 | 100.0 | 19,186 | 0.3 |
| 負 債 | 3,735 | 0.1 | 8,614 | 0.2 | 4,879 | 130.7 |
| 3 流 動 負 債 | 3,735 | 0.1 | 8,614 | 0.2 | 4,879 | 130.7 |
| (1) 未 払 金 | 492 | 0.0 | 7,814 | 0.1 | 7,322 | 1,489.5 |
| (2) 引 当 金 | 1,600 | 0.0 | 800 | 0.0 | △800 | △50.0 |
| (3) そ の 他 流 動 負 債 | 1,643 | 0.0 | — | — | △1,643 | 皆減 |
| 資 本 | 5,579,902 | 99.9 | 5,594,208 | 99.8 | 14,307 | 0.3 |
| 4 資 本 金 | 5,464,209 | 97.9 | 5,464,209 | 97.5 | 0 | 0.0 |
| 5 剰 余 金 | 115,693 | 2.1 | 129,999 | 2.3 | 14,307 | 12.4 |
| (1) 資 本 剰 余 金 | 54,815 | 1.0 | 54,815 | 1.0 | 0 | 0.0 |
| (2) 利 益 剰 余 金 | 60,877 | 1.1 | 75,184 | 1.3 | 14,307 | 23.5 |

(注) 1 年度末における有形固定資産の減価償却累計額は 2,143 千円です。

2 利益剰余金が△の場合には欠損金を表します。

(1) 資産

資産総額は 5,602,822 千円で、前年度末に比べ 19,186 千円・0.3%増加しています。

これは、主として現金及び預金で 159,921 千円減少した一方、有形固定資産で 92,585 千円・15.7%、投資その他資産で 200,000 千円 (皆増) それぞれ増加したためです。

なお、投資その他資産の増加要因は、地方公共団体金融機構債券の購入によるものです。

(2) 負債

負債総額は 8,614 千円で、前年度末に比べ 4,879 千円・130.7%増加しています。

これは、主として姫路西霊苑（第2期）防護柵設置工事費等により未払金が増加したためです。

(3) 資本

資本総額は 5,594,208 千円で、前年度末に比べ 14,307 千円・0.3%増加しています。

これは、利益剰余金が 14,307 千円増加したためです。

(4) 資金収支

当年度の資金増減の状況は、第8表のとおりです。

第8表 運転資本増減表

(単位 千円)

| 区 分 | 30年度末 | 元年度末 | 対前年度増減額 |
|-------------|-----------|-----------|----------|
| 流動資産 A | 4,861,991 | 4,641,064 | △220,927 |
| 流動負債 B | 3,735 | 8,614 | 4,879 |
| 累積資金剰余額 A-B | 4,858,257 | 4,632,450 | △225,806 |

累積資金剰余額は 4,632,450 千円で、前年度末に比べ 225,806 千円・4.6%減少しています。短期的な資金繰りは前年度より悪化しているものの、余裕のある状態といえます。

(5) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローの状況は、第9表のとおりです。

第9表 キャッシュ・フロー計算表

(単位 千円)

| 区 分 | 30年度末 | 元年度末 | 対前年度増減額 |
|--------------------|-----------|-----------|----------|
| 業務活動によるキャッシュ・フロー A | 44,544 | 40,079 | △4,464 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー B | — | △200,000 | △200,000 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー C | — | — | — |
| 資金増加(減少)額 D=A+B+C | 44,544 | △159,921 | △204,464 |
| 資金期首残高 E | 4,756,414 | 4,800,958 | 44,544 |
| 資金期末残高 E+D | 4,800,958 | 4,641,037 | △159,921 |

業務活動によるキャッシュ・フローは 40,079 千円のプラスで、前年度に比べ 4,464 千円減少し、投資活動によるキャッシュ・フローは 200,000 千円のマイナスで、前年度に比べ 200,000 千円（皆減）減少しています。また、財務活動によるキャッシュ・フロ

一はありません。

この結果、当年度の資金（現金・預金）期末残高は期首残高に比べ 159,921 千円減少し 4,641,037 千円となっています。

5 むすび

当年度の都市開発事業は、霊苑事業（名古屋山霊苑・姫路西霊苑・片山霊園）、一般土地事業及び住宅地事業を実施しました。一方、都市整備事業は、姫路駅周辺都市開発整備事業が平成29年度に完了し、新たな事業は行われておりません。

都市開発事業の主な内容は、霊苑事業において、えい地貸付けが名古屋山霊苑 47 区画、姫路西霊苑 6 区画及び片山霊園 9 区画の合計 62 区画あり 55,281 千円の収益を計上していますが、貸付区画数は前年度（76 区画）に比べ 14 区画減少しています。また、えい地返還が3霊苑併せて 86 区画で前年度（71 区画）に比べて 15 区画増加し、使用料の還付として 16,491 千円の支出を計上しました。返還の主な要因は、承継者不在や改葬など墓地の維持管理状況の変化によるものと考えられます。当年度末現在の保有区画数は 12,670 区画で、姫路西霊苑第2期造成工事により、令和2年度末の保有区画数は3霊苑併せて 12,993 区画となる予定です。当年度末現在の未貸付区画数は、3霊苑併せて 433 区画です。一般土地事業では、甲丘污水处理場放流管撤去工事等を実施し 6,582 千円を支出しました。住宅地事業では、安室地区の分譲地 13 区画のうち 10 区画を平成30年度に分譲し、残り 3 区画を令和元年度に分譲し完了しました。

都市開発事業では住宅地事業が完了し、霊苑事業におけるえい地の貸付が主な事業となっています。霊苑事業については、えい地の貸付数及び返還数並びに名古屋山霊苑の納骨堂の貸付状況などの動向を注視し、安定的な事業の運営に努めるとともに、えい地返還に伴う財務処理等について検討し、財務諸表が明確かつ適正な表現となるよう整理されることが望まれます。

都市整備事業については、市域を計画的に開発整備するために社会基盤を整備するという重要な役割を担っており、社会経済情勢の推移を注視し、中長期的に安定した都市基盤整備事業が行われることが望まれます。

事業残地として所管している土地については、売却可能な土地については販売の促進、その他の土地については保全対策等を行ったうえで一般会計に所管を移すなど整理を進めるよう努めてください。

事業会計全体として、令和2年度からの新たな経営戦略に基づき、経営収支（収益・費用）、資金収支（資産・負債）の継続的な改善に努めてください。

なお、流動資産の現金及び預金について、当年度は投資有価証券を購入されていますが、引き続き計画的な運用を行うよう努めてください。

下水道事業会計

下水道事業の主な役割は、汚水の排除、雨水の排除及び公共用水域の水質保全であり、市民の生活環境と公衆衛生を維持するために必要不可欠な社会基盤です。

本会計は、公共下水道事業、コミュニティ・プラント（以下「コミプラ」という。）事業及び集落排水事業の3つの事業に区分しています。

1 業務実績

(1) 公共下水道事業

公共下水道事業の業務実績について、最近5箇年を比較すると、第1表のとおりです。

第1表 業務実績表（公共下水道事業）

| 項目 | 単位 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 前年度比較 | |
|------------|----------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------|
| | | | | | | | 増減数 | 増減率 |
| 処理区域内総人口 | 人 | 493,162 | 492,683 | 492,808 | 493,331 | 493,909 | 578 | 0.1 |
| 処理区域内水洗化人口 | 人 | 479,803 | 480,083 | 480,835 | 482,018 | 483,205 | 1,187 | 0.2 |
| 処理区域内水洗化率 | % | 97.3 | 97.4 | 97.6 | 97.7 | 97.8 | 0.1 | — |
| 年間汚水処理水量 | m ³ | 84,802,983 | 79,860,268 | 79,767,564 | 79,361,894 | 76,618,497 | △2,743,397 | △3.5 |
| 1日平均汚水処理水量 | m ³ | 231,702 | 218,795 | 218,541 | 217,430 | 209,340 | △8,090 | △3.7 |
| 年間有収水量 | m ³ | 52,236,853 | 52,162,659 | 52,381,164 | 52,307,784 | 52,440,289 | 132,505 | 0.3 |
| 有収率 | % | 61.6 | 65.3 | 65.7 | 65.9 | 68.4 | 2.5 | — |
| 職員数 | 人 | 93(12) | 90(10) | 88(9) | 92(8) | 81(12) | △11(4) | — |

(注) 1 ()内は、再任用短時間勤務職員数について外書きしています。第3表及び第4表において同じ。

2 数値の意義は、次のとおりです。第2表、第3表及び第4表において同じ。

$$\begin{aligned}
 & \cdot \text{水洗化人口} = \text{汚水を公共下水道等に排除している人口} & \cdot \text{水洗化率} &= \frac{\text{水洗化人口}}{\text{総人口}} \\
 & \cdot \text{年間有収水量} = \text{使用料徴収の対象となった汚水の水量} & \cdot \text{有収率} &= \frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間汚水処理水量}}
 \end{aligned}$$

当年度末時点における公共下水道事業の処理区域内水洗化人口は 483,205 人で、前年度末に比べ 1,187 人増加しています。区域内総人口 493,909 人に対する水洗化率は 97.8%で、水洗化率向上のための整備事業は概ね完了した段階にあります。前年度に比べ 0.1 ポイント上昇しています。

年間の有収水量は 52,440,289 m³で、前年度に比べ 132,505 m³増加しています。汚水処理水量 76,618,497 m³に対する有収率は 68.4%となり、前年度に比べ 2.5 ポイント上昇しています。

(2) コミプラ事業

コミプラ事業の業務実績について、最近5箇年を比較すると、第2表のとおりです。

第2表 業務実績表（コミプラ事業）

| 項目 | 単位 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 前年度比較 | |
|------------|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|-------|
| | | | | | | | 増減数 | 増減率 |
| 処理区域内総人口 | 人 | 16,564 | 16,819 | 16,494 | 16,218 | 15,851 | △367 | △ 2.3 |
| 処理区域内水洗化人口 | 人 | 15,893 | 16,178 | 15,878 | 15,627 | 15,275 | △352 | △ 2.3 |
| 処理区域内水洗化率 | % | 95.9 | 96.2 | 96.3 | 96.4 | 96.4 | 0.0 | — |
| 年間汚水処理水量 | m ³ | 1,624,444 | 1,661,991 | 1,646,990 | 1,688,778 | 1,651,024 | △37,754 | △ 2.2 |
| 1日平均汚水処理水量 | m ³ | 4,438 | 4,553 | 4,512 | 4,627 | 4,511 | △116 | △ 2.5 |
| 年間有収水量 | m ³ | 1,403,769 | 1,446,300 | 1,446,544 | 1,412,425 | 1,395,515 | △16,910 | △ 1.2 |
| 有収率 | % | 86.4 | 87.0 | 87.8 | 83.6 | 84.5 | 0.9 | — |
| 職員数 | 人 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 | — |
| 施設数 | カ所 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 0 | — |

当年度末時点におけるコミプラ事業の処理区域内水洗化人口は 15,275 人で、前年度末に比べ 352 人減少しています。

区域内総人口 15,851 人に対する水洗化率は、前年度と同じく 96.4%となっています。

年間の有収水量は 1,395,515 m³で、人口減少等により、前年度に比べ 16,910 m³減少しています。汚水処理水量 1,651,024 m³に対する有収率は 84.5%となり、前年度に比べ 0.9 ポイント上昇しています。

(3) 集落排水事業

集落排水事業の業務実績について、最近5箇年を比較すると、第3表のとおりです。

第3表 業務実績表（集落排水事業）

| 項目 | 単位 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 前年度比較 | |
|------------|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|
| | | | | | | | 増減数 | 増減率 |
| 処理区域内総人口 | 人 | 14,515 | 14,279 | 13,133 | 12,502 | 11,144 | △1,358 | △ 10.9 |
| 処理区域内水洗化人口 | 人 | 14,002 | 13,821 | 12,714 | 12,157 | 10,824 | △1,333 | △ 11.0 |
| 処理区域内水洗化率 | % | 96.5 | 96.8 | 96.8 | 97.2 | 97.1 | △ 0.1 | — |
| 年間汚水処理水量 | m ³ | 1,577,157 | 1,525,653 | 1,415,834 | 1,336,842 | 1,169,233 | △167,609 | △ 12.5 |
| 1日平均汚水処理水量 | m ³ | 4,309 | 4,180 | 3,879 | 3,663 | 3,195 | △468 | △ 12.8 |
| 年間有収水量 | m ³ | 1,399,428 | 1,378,815 | 1,268,392 | 1,203,823 | 1,073,557 | △ 130,266 | △ 10.8 |
| 有収率 | % | 88.7 | 90.4 | 89.6 | 90.0 | 91.8 | 1.8 | — |
| 職員数 | 人 | 4(1) | 4(1) | 5(0) | 3(1) | 3(0) | 0(△1) | — |
| 施設数 | カ所 | 25 | 25 | 23 | 21 | 17 | △ 4 | — |

当年度末時点における集落排水事業の処理区域内水洗化人口は 10,824 人で、前年度

末に比べ 1,333 人減少しています。

これは、主として平成 31 年 4 月に矢田部地区、北恒屋地区、下伊勢地区及び細野地区の集落排水処理施設を廃止し、当該地区を公共下水道に接続したことによるものです。

区域内総人口 11,144 人に対する水洗化率は 97.1%となり、前年度に比べ 0.1 ポイント低下しています。

年間の有収水量は 1,073,557 m³で、公共下水道への接続等により、前年度に比べ 130,266 m³減少しています。汚水処理水量 1,169,233 m³に対する有収率は 91.8%となり、前年度に比べ 1.8 ポイント上昇しています。

(4) 小括

公共下水道事業、コミプラ事業及び集落排水事業（以下「3事業」という。）の業務実績の合計について、最近5箇年を比較すると、第4表のとおりです。

第4表 業務実績表（3事業の合計）

| 項目 | 単位 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 前年度比較 | |
|------------|----------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|
| | | | | | | | 増減数 | 増減率 |
| 処理区域内総人口 | 人 | 524,241 | 523,781 | 522,435 | 522,051 | 520,904 | △1,147 | △ 0.2 |
| 処理区域内水洗化人口 | 人 | 509,698 | 510,082 | 509,427 | 509,802 | 509,304 | △498 | △ 0.1 |
| 処理区域内水洗化率 | % | 97.2 | 97.4 | 97.5 | 97.7 | 97.8 | 0.1 | — |
| 年間汚水処理水量 | m ³ | 88,004,584 | 83,047,912 | 82,830,388 | 82,387,514 | 79,438,754 | △2,948,760 | △ 3.6 |
| 1日平均汚水処理水量 | m ³ | 240,450 | 227,529 | 226,933 | 225,719 | 217,046 | △8,673 | △ 3.8 |
| 年間有収水量 | m ³ | 55,040,050 | 54,987,774 | 55,096,100 | 54,924,032 | 54,909,361 | △14,671 | △ 0.0 |
| 有収率 | % | 62.5 | 66.2 | 66.5 | 66.7 | 69.1 | 2.4 | — |
| 職員数 | 人 | 100(13) | 97(11) | 96(9) | 98(9) | 87(12) | △11(3) | — |

当年度末時点における3事業の処理区域内水洗化人口は 509,304 人で、前年度に比べ 498 人減少しました。処理区域内総人口 520,904 人に対する水洗化率は 97.8%で、前年度に比べ 0.1 ポイント上昇しています。

3事業の年間有収水量は 54,909,361 m³で、前年度に比べ 14,671 m³減少しています。年間汚水処理水量 79,438,754 m³に対する有収率は 69.1%となり、前年度に比べ 2.4 ポイント上昇しています。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

収益的収支の予算執行状況は、第5表のとおりです。

第5表 収益的収支の予算執行状況

(単位 千円、%)

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 執 行 率 | 予算額に対する 決算額の増減 又は不用額 |
|-------------|------------|------------|-------|----------------------------|
| 収 益 的 収 入 | 20,721,119 | 19,829,447 | 95.7 | △891,672 |
| 下水道事業収益 | 19,088,871 | 18,316,988 | 96.0 | △771,883 |
| 営業収益 | 11,511,173 | 11,336,216 | 98.5 | △174,957 |
| 営業外収益 | 7,576,498 | 6,974,909 | 92.1 | △601,589 |
| 特別利益 | 1,200 | 5,863 | 488.6 | 4,663 |
| コミプラ事業収益 | 937,308 | 874,496 | 93.3 | △62,812 |
| 営業収益 | 233,123 | 222,850 | 95.6 | △10,273 |
| 営業外収益 | 704,185 | 651,639 | 92.5 | △52,546 |
| 特別利益 | — | 7 | — | 7 |
| 集落排水事業収益 | 694,940 | 637,963 | 91.8 | △56,977 |
| 営業収益 | 199,960 | 195,586 | 97.8 | △4,374 |
| 営業外収益 | 494,980 | 442,360 | 89.4 | △52,620 |
| 特別利益 | — | 18 | — | 18 |
| 収 益 的 支 出 | 20,549,926 | 19,527,705 | 95.0 | 1,022,221 |
| 下水道事業費用 | 18,891,960 | 18,026,391 | 95.4 | 865,569 |
| 営業費用 | 16,432,701 | 15,813,915 | 96.2 | 618,786 |
| 営業外費用 | 2,446,609 | 2,212,476 | 90.4 | 234,133 |
| 特別損失 | 12,650 | — | 0.0 | 12,650 |
| コミプラ事業費用 | 934,325 | 868,460 | 93.0 | 65,865 |
| 営業費用 | 920,082 | 861,171 | 93.6 | 58,911 |
| 営業外費用 | 13,323 | 7,289 | 54.7 | 6,034 |
| 特別損失 | 920 | — | 0.0 | 920 |
| 集落排水事業費用 | 691,641 | 632,854 | 91.5 | 58,787 |
| 営業費用 | 607,895 | 556,937 | 91.6 | 50,958 |
| 営業外費用 | 82,847 | 75,917 | 91.6 | 6,930 |
| 特別損失 | 899 | — | 0.0 | 899 |
| 予備費用 | 32,000 | — | 0.0 | 32,000 |
| 収 益 的 収 支 | 171,193 | 301,742 | — | — |
| 下水道事業収益的収支 | 196,911 | 290,597 | — | — |
| コミプラ事業収益的収支 | 2,983 | 6,035 | — | — |
| 集落排水事業収益的収支 | 3,299 | 5,110 | — | — |

(注) 1 収益的収入の決算額には、仮受消費税及び地方消費税 800,449 千円を含みます。

2 収益的支出の決算額には、仮払消費税及び地方消費税 519,061 千円を含みます。

収益的収入の決算額は 19,829,447 千円で、予算額に対し 95.7%の執行率となっています。収益的支出の決算額は 19,527,705 千円で、予算額に対し 95.0%の執行率となっており 1,022,221 千円の不用額が生じています。

不用額の主なものは、公共下水道事業の処理場費に係る報酬給与費等 128,076 千円、前処理場費に係る薬品使用料等 55,670 千円です。報酬給与費の不用額は、大的析水苑の運転管理業務の委託化により職員数が削減されたことに伴うもので、薬品使用料の不用額は、皮革流入水量の減少に伴うものです。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収支の予算執行状況は、第6表のとおりです。

第6表 資本的収支の予算執行状況

(単位 千円、%)

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 執行率 | 翌 年 度 繰 越 額 | 予算額に対する 決算額の増減 又は不用額 |
|-----------------------------|------------|------------|-------|----------------|----------------------------|
| 資 本 的 収 入 | 14,316,415 | 9,494,384 | 66.3 | — | △4,822,031 |
| 下水道事業資本的収入 | 13,939,785 | 9,176,666 | 65.8 | — | △4,763,119 |
| 企 業 債 | 6,071,700 | 2,913,200 | 48.0 | — | △3,158,500 |
| 国 庫 補 助 金 | 3,639,559 | 1,608,374 | 44.2 | — | △2,031,186 |
| 他 会 計 出 資 金 | 4,159,124 | 4,574,197 | 110.0 | — | 415,073 |
| 分 担 金 及 び 負 担 金 | 44,927 | 68,201 | 151.8 | — | 23,274 |
| そ の 他 資 本 的 収 入 | 24,475 | 12,677 | 51.8 | — | △11,798 |
| 固 定 資 産 売 却 代 金 | — | 17 | — | — | 17 |
| コ ミ プ ラ 事 業 資 本 的 収 入 | 83,820 | 37,030 | 44.2 | — | △46,790 |
| 企 業 債 | 76,200 | 32,500 | 42.7 | — | △43,700 |
| 分 担 金 及 び 負 担 金 | 7,620 | 4,530 | 59.4 | — | △3,090 |
| 集 落 排 水 事 業 資 本 的 収 入 | 292,810 | 280,688 | 95.9 | — | △12,122 |
| 企 業 債 | 75,000 | 53,600 | 71.5 | — | △21,400 |
| 国 庫 補 助 金 | 32,633 | 31,534 | 96.6 | — | △1,099 |
| 他 会 計 出 資 金 | 182,857 | 192,884 | 105.5 | — | 10,027 |
| 分 担 金 及 び 負 担 金 | 2,320 | 2,670 | 115.1 | — | 350 |
| 資 本 的 支 出 | 21,161,051 | 16,040,377 | 75.8 | 4,440,854 | 679,820 |
| 下水道事業資本的支出 | 20,418,539 | 15,367,385 | 75.3 | 4,426,974 | 624,180 |
| 建 設 改 良 費 | 10,616,532 | 5,573,808 | 52.5 | 4,426,974 | 615,750 |
| 企 業 債 償 還 金 | 9,793,257 | 9,792,676 | 100.0 | — | 581 |
| 水 洗 便 所 普 及 奨 励 事 業 費 | 8,750 | 900 | 10.3 | — | 7,850 |
| コ ミ プ ラ 事 業 資 本 的 支 出 | 240,233 | 197,838 | 82.4 | 2,055 | 40,340 |
| 建 設 改 良 費 | 116,336 | 73,942 | 63.6 | 2,055 | 40,339 |
| 企 業 債 償 還 金 | 123,897 | 123,896 | 100.0 | — | 1 |
| 集 落 排 水 事 業 資 本 的 支 出 | 495,279 | 475,155 | 95.9 | 11,825 | 8,299 |
| 建 設 改 良 費 | 111,339 | 91,215 | 81.9 | 11,825 | 8,299 |
| 企 業 債 償 還 金 | 383,940 | 383,939 | 100.0 | — | 1 |
| 予 備 費 | 7,000 | — | 0.0 | — | 7,000 |
| 資 本 的 収 支 不 足 額 | 6,844,636 | 6,545,993 | — | — | — |
| 下水道事業資本的収支不足額 | 6,478,754 | 6,190,719 | — | — | — |
| コ ミ プ ラ 事 業 資 本 的 収 支 不 足 額 | 156,413 | 160,808 | — | — | — |
| 集 落 排 水 事 業 資 本 的 収 支 不 足 額 | 202,469 | 194,467 | — | — | — |

(注) 1 資本的収入の決算額には、仮受消費税及び地方消費税 1千円を含みます。

2 資本的支出の決算額には、仮払消費税及び地方消費税 429,919千円を含みます。

資本的収入の決算額は 9,494,384 千円で、予算額に対し 66.3%の執行率となっています。資本的支出の決算額は 16,040,377 千円で、予算額に対し 75.8%の執行率となっており 679,820 千円の不用額が生じています。

これらは、一部の建設改良工事を次年度に繰り越したこと、並びに、その財源である企業債及び国庫補助金を収入できなかったことによるものです。不用額の主なものは、公共下水道事業の施設整備費に係る 615,743 千円です。

建設改良費の主なものは、公共下水道事業の管渠施設に係る 3,078,161 千円、ポンプ場施設に係る 1,177,321 千円、処理場施設に係る 843,496 千円です。

資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 6,545,993 千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 299,728 千円、減債積立金 30,000 千円、過年度分損益勘定留保資金 747,968 千円及び当年度分損益勘定留保資金 5,468,297 千円で補填しています。

(3) 一般会計からの繰入金

一般会計からの繰入の状況は、第7表のとおりです。

第7表 一般会計からの繰入状況

(単位 千円、%)

| 区 分 | 収 入 額 (総 額) | 内 一般会計からの繰入金 | | | | |
|----------------------|-------------------|--------------------|-------------|------------------------|-------------|-------------------|
| | | 法 令 等 に よ る も の | | 法 令 等 に よ ら な い も の | | 計 |
| | | 金 額 | 構 成 比 率 | 金 額 | 構 成 比 率 | 金 額 |
| 下水道事業収益的収入 | 18,316,988 | 4,257,019 | 23.2 | 659,257 | 3.6 | 4,916,276 |
| 営業収益 | 11,336,216 | 1,686,461 | 14.9 | — | — | 1,686,461 |
| 営業外収益 | 6,974,909 | 2,570,558 | 36.9 | 659,257 | 9.5 | 3,229,815 |
| 下水道事業資本的収入 | 9,176,666 | 1,367,186 | 14.9 | 3,207,011 | 34.9 | 4,574,197 |
| 公共下水道事業計 | 27,493,654 | 5,624,205 | 20.5 | 3,866,268 | 14.1 | 9,490,473 |
| コミプラ事業収益的収入 | 874,496 | — | — | 210,760 | 24.1 | 210,760 |
| 営業収益 | 222,850 | — | — | — | — | — |
| 営業外収益 | 651,639 | — | — | 210,760 | 32.3 | 210,760 |
| コミプラ事業資本的収入 | 37,030 | — | — | — | — | — |
| コ ミ プ ラ 事 業 計 | 911,526 | — | — | 210,760 | 23.1 | 210,760 |
| 集落排水事業収益的収入 | 637,963 | 260,633 | 40.9 | 7,490 | 1.2 | 268,124 |
| 営業収益 | 195,586 | — | — | — | — | — |
| 営業外収益 | 442,360 | 260,633 | 58.9 | 7,490 | 1.7 | 268,124 |
| 集落排水事業資本的収入 | 280,688 | 6,197 | 2.2 | 186,687 | 66.5 | 192,884 |
| 集 落 排 水 事 業 計 | 918,651 | 266,830 | 29.0 | 194,177 | 21.1 | 461,007 |
| 合 計 | 29,323,831 | 5,891,035 | 20.1 | 4,271,205 | 14.6 | 10,162,240 |

本会計は、他の公営企業会計や特別会計と比べて、一般会計からの繰入金が多額とな

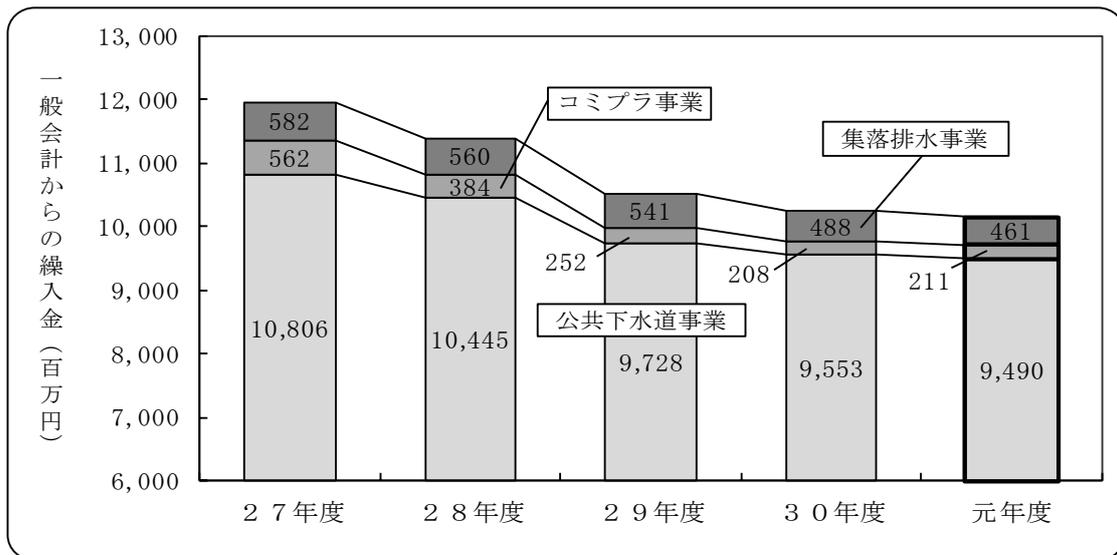
っており、当年度も 10,162,240 千円が繰り入れられています。

法令等による繰入金は 5,891,035 千円です。このうち、収益的収入に属する主なものは、雨水処理に係る維持管理費負担金 1,686,461 千円、公共下水道事業の一般汚水に係る分流式下水道等資本費負担金 1,370,725 千円、不明水処理経費負担金 488,225 千円、前処理汚水に係る分流式下水道等資本費負担金 454,667 千円です。また、資本的収入に属する主なものは、下水道事業債（普及特別対策分）元金償還金出資金 657,169 千円、雨水処理に係る建設改良費出資金 379,196 千円です。

法令等によらない繰入金とは、自治体独自の政策判断によるもので 4,271,205 千円です。このうち、収益的収入に属する主なものは、皮革汚水に係る水環境保全補助金 659,138 千円で、資本的収入に属する主なものは、公共下水道事業の経営基盤安定化出資金 2,925,692 千円です。

最近 5 箇年の一般会計からの繰入金の推移をグラフで示すと、第 1 図のとおりです。

第 1 図 一般会計からの繰入金の推移



計画的な投資により減価償却費及び企業債支払利息が減少傾向であることに加え、平成 29 年 4 月の使用料改定に伴う増収や電力入札の実施による施設維持管理費の抑制により、一般会計からの繰入金は緩やかな減少傾向にあります。

当年度の繰入額は、前年度（10,249,092 千円）に比べ 86,852 千円・0.8%減少しています。

3 経営成績

(1) 公共下水道事業

公共下水道事業の経営収支の状況は、第8表のとおりです。

第8表 経営収支の状況（公共下水道事業）

（単位 千円、％）

| 区 分 | 30年度 | 元年度 | 前 年 度 比 較 | |
|-----------------------|------------|------------|-----------|--------|
| | | | 増 減 額 | 増 減 率 |
| 収 益 A | 17,747,077 | 17,544,486 | △202,592 | △1.1 |
| 営 業 収 益 | 10,730,226 | 10,570,418 | △159,808 | △1.5 |
| 下水道使用料 | 8,728,263 | 8,755,148 | 26,884 | 0.3 |
| 国庫補助金 | 20,316 | 177 | △20,140 | △99.1 |
| 県補助金 | 48,600 | 51,127 | 2,527 | 5.2 |
| 他会計負担金 | 1,858,358 | 1,686,461 | △171,897 | △9.2 |
| 受託事業収益 | 24,080 | 28,316 | 4,236 | 17.6 |
| その他営業収益 | 50,609 | 49,190 | △1,420 | △2.8 |
| 営業外収益 | 7,016,851 | 6,974,068 | △42,783 | △0.6 |
| 他会計負担金 | 2,717,124 | 2,570,558 | △146,566 | △5.4 |
| 他会計補助金 | 559,877 | 659,257 | 99,380 | 17.8 |
| 長期前受金戻入 | 3,711,240 | 3,715,840 | 4,600 | 0.1 |
| 雑収益 | 28,601 | 28,412 | △189 | △0.7 |
| 受取利息及び配当金 | 8 | — | △8 | 皆減 |
| 費 用 B | 17,725,052 | 17,549,882 | △175,170 | △1.0 |
| 営 業 費 用 | 15,255,740 | 15,325,586 | 69,847 | 0.5 |
| 管 渠 費 用 | 592,258 | 616,796 | 24,538 | 4.1 |
| ポンプ場費 | 128,115 | 127,265 | △851 | △0.7 |
| 処 理 場 費 | 1,204,594 | 1,304,696 | 100,102 | 8.3 |
| 前 処 理 場 費 | 924,909 | 921,341 | △3,568 | △0.4 |
| 流域下水道維持管理経費 | 773,453 | 831,390 | 57,937 | 7.5 |
| 流域下水汚泥処理事業維持管理経費 | 1,508,264 | 1,439,400 | △68,864 | △4.6 |
| 普及促進費 | 2,193 | 2,235 | 42 | 1.9 |
| 業務費 | 283,550 | 275,878 | △7,672 | △2.7 |
| 総 係 費 | 181,765 | 169,866 | △11,899 | △6.5 |
| 水洗便所普及奨励事業費 | 73 | 111 | 39 | 53.0 |
| 減価償却費 | 9,590,416 | 9,544,530 | △45,886 | △0.5 |
| 資産減耗費 | 66,151 | 92,078 | 25,927 | 39.2 |
| 営業外費用 | 2,469,313 | 2,224,295 | △245,017 | △9.9 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | 2,382,646 | 2,131,969 | △250,677 | △10.5 |
| 雑 支 出 | 86,667 | 92,327 | 5,660 | 6.5 |
| 経 常 損 益 (A-B) C | 22,025 | △5,396 | △27,421 | △124.5 |
| 特 別 利 益 D | 2,826 | 5,396 | 2,570 | 90.9 |
| 特 別 損 失 E | 24,851 | — | △24,851 | 皆減 |
| 当 年 度 純 損 益 (C+D-E) F | 0 | 0 | 0 | 0.0 |
| 前年度繰越利益剰余金 G | △41,800 | △41,800 | 0 | 0.0 |
| その他未処分利益剰余金変動額 H | — | — | — | — |
| 当年度未処分利益剰余金 (F+G+H) | △41,800 | △41,800 | 0 | 0.0 |
| 経 常 収 支 比 率 (A/B×100) | 100.1 | 100.0 | △0.1 | — |

当年度の公共下水道事業の経常損失は 5,396 千円で、前年度に比べ、損益が 27,421 千円減少しました。

当年度の経常収支比率は 100.0%ですが、収入不足を補うために、当年度純損益が 0 円となる金額を上限として、一般会計から繰入を行っています。

当年度純損益は、前年度と同じく 0 円です。

前年度からの繰越欠損金及び当年度未処理欠損金は、いずれも 41,800 千円です。

ア 収益

当年度の収益は 17,544,486 千円で、前年度に比べ 202,592 千円・1.1%減少しています。

これは、営業収益が 159,808 千円・1.5%、営業外収益が 42,783 千円・0.6%それぞれ減少したためです。

営業収益の減少は、主として下水道使用料が 26,884 千円・0.3%増加したものの、他会計負担金が 171,897 千円・9.2%減少したためです。

営業外収益の減少は、主として他会計補助金が 99,380 千円・17.8%増加したものの、他会計負担金が 146,566 千円・5.4%減少したためです。

イ 費用

当年度の費用は 17,549,882 千円で、前年度に比べ 175,170 千円・1.0%減少しています。

これは、営業費用が 69,847 千円・0.5%増加したものの、営業外費用が 245,017 千円・9.9%減少したためです。

営業費用の増加は、主として流域下水汚泥処理事業維持管理経費が 68,864 千円・4.6%減少したものの、汚泥等残留物の処分委託及び大的析水苑の運転管理業務の委託化等で処理場費が 100,102 千円・8.3%増加したためです。

営業外費用の減少は、主として支払利息及び企業債取扱諸費が 250,677 千円・10.5%減少したためです。

ウ 収益、費用及び経常損益の推移

最近 5 箇年の収益、費用及び経常損益の推移は、第 9 表のとおりです。

第 9 表 収益、費用及び経常損益の推移（公共下水道事業）

(単位 千円)

| 区 分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 収 益 | 18,435,357 | 17,773,651 | 17,841,064 | 17,747,077 | 17,544,486 |
| 費 用 | 18,437,368 | 17,775,940 | 17,839,025 | 17,725,052 | 17,549,882 |
| 経常損益 | △ 2,011 | △ 2,289 | 2,039 | 22,025 | △ 5,396 |

収入不足を補うために、一般会計から繰入を行っており、毎年度の収益と費用は概ね均衡しています。

計画的な投資により減価償却費及び企業債支払利息が減少傾向にあることや、施設維持管理費の抑制等にも努めていることから、費用は緩やかな減少傾向にあります。

(2) コミプラ事業

コミプラ事業の経営収支の状況は、第10表のとおりです。

第10表 経営収支の状況（コミプラ事業）

| 区 分 | 30年度 | 元年度 | 前年度比較 | |
|-------------------------------|---------|---------|---------|--------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 収 益 A | 875,884 | 856,743 | △19,141 | △2.2 |
| 営 業 収 益 | 207,898 | 205,105 | △2,794 | △1.3 |
| コ ミ プ ラ 使 用 料 | 207,884 | 205,092 | △2,792 | △1.3 |
| そ の 他 営 業 収 益 | 15 | 12 | △2 | △15.1 |
| 営 業 外 収 益 | 667,986 | 651,639 | △16,347 | △2.4 |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金 | 20 | 16 | △3 | △16.7 |
| 他 会 計 補 助 金 | 208,457 | 210,760 | 2,303 | 1.1 |
| 長 期 前 受 金 戻 入 | 459,334 | 440,817 | △18,517 | △4.0 |
| 引 当 金 戻 入 | 169 | 36 | △133 | △78.8 |
| 雑 収 益 | 5 | 10 | 5 | 88.4 |
| 費 用 B | 875,085 | 856,750 | △18,335 | △2.1 |
| 営 業 費 用 | 862,198 | 844,742 | △17,457 | △2.0 |
| 処 理 場 費 | 179,870 | 176,523 | △3,347 | △1.9 |
| 業 務 費 | 7,261 | 7,046 | △216 | △3.0 |
| 総 係 費 | 15,438 | 17,700 | 2,262 | 14.6 |
| 減 価 償 却 費 | 659,629 | 636,961 | △22,668 | △3.4 |
| 資 産 減 耗 費 | — | 6,513 | 6,513 | 皆増 |
| 営 業 外 費 用 | 12,887 | 12,009 | △878 | △6.8 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 12,614 | 11,823 | △791 | △6.3 |
| 雑 支 出 | 273 | 186 | △87 | △31.9 |
| 経 常 損 益 (A-B) C | 798 | △7 | △805 | △100.9 |
| 特 別 利 益 D | 20 | 7 | △13 | △64.7 |
| 特 別 損 失 E | 818 | — | △818 | 皆減 |
| 当 年 度 純 損 益 (C+D-E) F | 0 | 0 | 0 | 0.0 |
| 前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金 G | 231,910 | 231,910 | 0 | 0.0 |
| そ の 他 未 処 分 利 益 剰 余 金 変 動 額 H | 30,000 | 30,000 | 0 | 0.0 |
| 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金 (F+G+H) | 261,910 | 261,910 | 0 | 0.0 |
| 経 常 収 支 比 率 (A/B×100) | 100.1 | 100.0 | △0.1 | — |

当年度のコミプラ事業の経常損失は7千円で、前年度に比べ、損益が805千円減少しました。

経常収支比率は100.0%ですが、収入不足を補うために、当年度純損益が0円となる金額を上限として、一般会計から繰入を行っています。

当年度純損益は、前年度と同じく 0 円です。

前年度未処分利益剰余金は 261,910 千円でしたが、その中から 30,000 千円を資本金に組み入れた結果、前年度繰越利益剰余金は 231,910 千円となっています。

当年度も減債積立金から 30,000 千円を取り崩したことにより、当年度未処分利益剰余金は 261,910 千円となっています。

ア 収益

当年度の収益は 856,743 千円で、前年度に比べ 19,141 千円・2.2%減少しています。

これは、営業収益が 2,794 千円・1.3%、営業外収益が 16,347 千円・2.4%それぞれ減少したためです。

営業収益の減少は、主として人口減少等により、コミプラ使用料が 2,792 千円・1.3%減少したためです。

営業外収益の減少は、主として他会計補助金が 2,303 千円・1.1%増加したものの、長期前受金戻入が 18,517 千円・4.0%減少したためです。

イ 費用

当年度の費用は 856,750 千円で、前年度に比べ 18,335 千円・2.1%減少しています。

これは、営業費用が 17,457 千円・2.0%、営業外費用が 878 千円・6.8%それぞれ減少したためです。

営業費用の減少は、主として資産減耗費が 6,513 千円（皆増）増加したものの、減価償却費が 22,668 千円・3.4%減少したためです。

営業外費用の減少は、主として支払利息及び企業債取扱諸費が 791 千円・6.3%減少したためです。

ウ 収益、費用及び経常損益の推移

最近 5 箇年の収益、費用及び経常損益の推移は、第 11 表のとおりです。

第 11 表 収益、費用及び経常損益の推移（コミプラ事業）

（単位 千円）

| 区 分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 収 益 | 922,709 | 900,505 | 893,316 | 875,884 | 856,743 |
| 費 用 | 922,705 | 900,059 | 893,297 | 875,085 | 856,750 |
| 経常損益 | 4 | 445 | 19 | 798 | △ 7 |

収入不足を補うために、一般会計から繰入を行っており、毎年度の収益と費用は概ね均衡しています。

計画的な投資により減価償却費及び企業債支払利息が減少傾向にあることにより、費用は緩やかな減少傾向にあります。

(3) 集落排水事業

集落排水事業の経営収支の状況は、第12表のとおりです。

第12表 経営収支の状況（集落排水事業）

| 区 分 | 30年度 | 元年度 | 前年度比較 | |
|-------------------|---------|---------|----------|--------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 収 益 A | 743,615 | 622,348 | △121,267 | △16.3 |
| 営業収益 | 200,544 | 179,991 | △20,553 | △10.2 |
| 集落排水処理施設使用料 | 200,534 | 179,982 | △20,551 | △10.2 |
| その他営業収益 | 10 | 8 | △1 | △12.9 |
| 営業外収益 | 543,071 | 442,357 | △100,714 | △18.5 |
| 他会計負担金 | 318,981 | 260,633 | △58,348 | △18.3 |
| 他会計補助金 | 6,597 | 7,490 | 893 | 13.5 |
| 長期前受金戻入 | 217,275 | 174,135 | △43,140 | △19.9 |
| 引当金戻入 | — | 51 | 51 | 皆増 |
| 雑収益 | 218 | 49 | △169 | △77.7 |
| 費 用 B | 743,478 | 622,366 | △121,112 | △16.3 |
| 営業費用 | 651,363 | 542,633 | △108,730 | △16.7 |
| 処理場費用 | 170,587 | 154,979 | △15,608 | △9.1 |
| 業務費用 | 5,319 | 4,739 | △580 | △10.9 |
| 総係費 | 23,354 | 19,424 | △3,930 | △16.8 |
| 減価償却費 | 439,461 | 360,184 | △79,277 | △18.0 |
| 資産減耗費 | 12,642 | 3,307 | △9,335 | △73.8 |
| 営業外費用 | 92,115 | 79,733 | △12,383 | △13.4 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | 91,760 | 79,143 | △12,617 | △13.7 |
| 雑支出 | 356 | 590 | 234 | 65.9 |
| 経常損益 (A-B) C | 137 | △18 | △154 | △113.1 |
| 特別利益 D | 12 | 18 | 6 | 54.8 |
| 特別損失 E | 148 | — | △148 | 皆減 |
| 当年度純損益 (C+D-E) F | 0 | 0 | 0 | 0.0 |
| 前年度繰越利益剰余金 G | 0 | 0 | 0 | 0.0 |
| 当年度未処分利益剰余金 (F+G) | 0 | 0 | 0 | 0.0 |
| 経常収支比率 (A/B×100) | 100.0 | 100.0 | 0.0 | — |

当年度の集落排水事業の経常損失は 18 千円で、前年度に比べ、損益が 154 千円減少しました。

経常収支比率は 100.0%ですが、収入不足を補うために、当年度純損益が 0 円となる金額を上限として、一般会計から繰入を行っています。

当年度純損益は、前年度と同じく 0 円となっています。

ア 収益

当年度の収益は 622,348 千円で、前年度に比べ 121,267 千円・16.3%減少しています。

これは、営業収益が 20,553 千円・10.2%、営業外収益が 100,714 千円・18.5%それぞれ減少したためです。

営業収益の減少は、主として公共下水道への接続等により、集落排水処理施設使用

料が 20,551 千円・10.2%減少したためです。

営業外収益の減少は、主として他会計負担金が 58,348 千円・18.3%、長期前受金戻入が 43,140 千円・19.9%それぞれ減少したためです。

イ 費用

当年度の費用は 622,366 千円で、前年度に比べ 121,112 千円・16.3%減少しています。

これは、営業費用が 108,730 千円・16.7%、営業外費用が 12,383 千円・13.4%それぞれ減少したためです。

営業費用の減少は、主として減価償却費が 79,277 千円・18.0%減少したためです。

営業外費用の減少は、主として支払利息及び企業債取扱諸費が 12,617 千円・13.7%減少したためです。

ウ 収益、費用及び経常損益の推移

最近 5 箇年の収益、費用及び経常損益の推移は、第 13 表のとおりです。

第 13 表 収益、費用及び経常損益の推移（集落排水事業）

(単位 千円)

| 区 分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 収 益 | 942,979 | 865,813 | 807,990 | 743,615 | 622,348 |
| 費 用 | 942,915 | 864,972 | 807,968 | 743,478 | 622,366 |
| 経常損益 | 64 | 841 | 22 | 137 | △ 18 |

収入不足を補うために、一般会計から繰入を行っており、毎年度の収益と費用は概ね均衡しています。

計画的な投資により減価償却費及び企業債支払利息が減少傾向にあることや、平成 29 年度から令和元年度にかけて、計 8 地区の集落排水処理施設及びその処理区域を公共下水道に移管したこと等により、費用は減少傾向にあります。

(4) 経費充足率

3事業の経費充足率等の状況は、第14表のとおりです。

第14表 使用料単価、汚水処理原価及び経費充足率の推移

| 区 分 | 単 位 | 公共下水道事業 | | | コミプラ事業 | | | 集落排水事業 | | |
|-------------------------------|------------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|------------|
| | | 30年度 | 元年度 | 対前年度 増減 | 30年度 | 元年度 | 対前年度 増減 | 30年度 | 元年度 | 対前年度 増減 |
| 年 間 有 収 水 量 A | m ³ | 52,307,784 | 52,440,289 | 132,505 | 1,412,425 | 1,395,515 | △16,910 | 1,203,823 | 1,073,557 | △130,266 |
| 使 用 料 B | 千円 | 8,728,263 | 8,755,148 | 26,884 | 207,884 | 205,092 | △2,792 | 200,534 | 179,982 | △20,551 |
| 汚 水 処 理 費 用 C | 千円 | 11,429,774 | 11,402,120 | △27,654 | 415,751 | 415,933 | 182 | 523,440 | 445,813 | △77,627 |
| 使 用 料 単 価 (B/A×1,000) | 円/m ³ | 166.9 | 167.0 | 0.1 | 147.2 | 147.0 | △0.2 | 166.6 | 167.7 | 1.1 |
| 汚 水 処 理 原 価 (C/A×1,000) | 円/m ³ | 218.5 | 217.4 | △1.1 | 294.4 | 298.1 | 3.7 | 434.8 | 415.3 | △19.5 |
| 経 費 充 足 率 (B/C×100) | % | 76.4 | 76.8 | 0.4 | 50.0 | 49.3 | △0.7 | 38.3 | 40.4 | 2.1 |

(注) 姫路市下水道事業戦略の考え方に合わせて、汚水処理費用は、分流式下水道に要する経費を控除する前のものとし、その回収率を「経費充足率」としています。

使用料単価は、有収水量1 m³当たりの使用料収益の額であり、公共下水道事業が167.0円/m³、コミプラ事業が147.0円/m³、集落排水事業が167.7円/m³となっています。

汚水処理原価は、有収水量1 m³当たりの汚水処理費用の額であり、公共下水道事業が217.4円/m³、コミプラ事業が298.1円/m³、集落排水事業が415.3円/m³となっています。

経費充足率は、汚水処理費用のうち、使用料として受益者（使用者）から回収することができた割合です。受益者負担の原則及び持続可能な経営の観点等から、経費充足率は100%以上を確保することが望まれます。

下水道局においては、経費削減及び増収等に取り組んだうえで、平成28年1月に策定した経営戦略に沿って、平成29年4月から下水道使用料を改定し、経費充足率等の改善を図っています。

当年度の公共下水道事業の経費充足率は76.8%で、前年度に比べ0.4ポイント上昇しています。コミプラ事業については49.3%で、前年度に比べ0.7ポイント低下しています。集落排水事業については40.4%で、前年度に比べ2.1ポイント上昇しています。

4 財政状態

当年度末の貸借対照表を前年度末のそれと比較すると、第15表のとおりです。

第15表 比較貸借対照表

(単位 千円、%)

| 区 分 | 30年度末 | | 元年度末 | | 前年度比較 | |
|---------------|--------------------|--------------|--------------------|--------------|--------------------|-------------|
| | 金額 | 構成比率 | 金額 | 構成比率 | 増減額 | 増減率 |
| 資 産 | 280,416,045 | 100.0 | 272,957,370 | 100.0 | △7,458,674 | △2.7 |
| 1 固定資産 | 274,178,911 | 97.8 | 269,488,379 | 98.7 | △4,690,532 | △1.7 |
| (公共下水道事業) | 248,546,314 | 88.6 | 245,591,612 | 90.0 | △2,954,702 | △1.2 |
| (1) 有形固定資産 | 239,723,729 | 85.5 | 237,151,520 | 86.9 | △2,572,209 | △1.1 |
| (2) 無形固定資産 | 8,813,304 | 3.1 | 8,431,416 | 3.1 | △381,888 | △4.3 |
| (3) 投資資産 | 9,281 | 0.0 | 8,676 | 0.0 | △605 | △6.5 |
| (コンプラ事業) | 15,364,711 | 5.5 | 14,790,429 | 5.4 | △574,282 | △3.7 |
| (1) 有形固定資産 | 15,364,711 | 5.5 | 14,790,429 | 5.4 | △574,282 | △3.7 |
| (集落排水事業) | 10,267,886 | 3.7 | 9,106,338 | 3.3 | △1,161,548 | △11.3 |
| (1) 有形固定資産 | 10,267,886 | 3.7 | 9,106,338 | 3.3 | △1,161,548 | △11.3 |
| 2 流動資産 | 6,237,134 | 2.2 | 3,468,991 | 1.3 | △2,768,143 | △44.4 |
| (1) 現金及び預金 | 4,458,520 | 1.6 | 1,813,275 | 0.7 | △2,645,244 | △59.3 |
| (2) 未収金 | 1,752,117 | 0.6 | 1,628,372 | 0.6 | △123,745 | △7.1 |
| (3) 貯蔵品 | 26,077 | 0.0 | 26,924 | 0.0 | 847 | 3.2 |
| (4) その他流動資産 | 420 | 0.0 | 420 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 負債及び資本 | 280,416,045 | 100.0 | 272,957,370 | 100.0 | △7,458,674 | △2.7 |
| 負 債 | 212,201,138 | 75.7 | 199,975,383 | 73.3 | △12,225,755 | △5.8 |
| 3 固定負債 | 98,876,888 | 35.3 | 91,509,759 | 33.5 | △7,367,129 | △7.5 |
| (1) 企業債 | 98,876,888 | 35.3 | 91,509,759 | 33.5 | △7,367,129 | △7.5 |
| 4 流動負債 | 14,754,215 | 5.3 | 11,987,642 | 4.4 | △2,766,573 | △18.8 |
| (1) 企業債 | 10,300,512 | 3.7 | 10,366,429 | 3.8 | 65,917 | 0.6 |
| (2) 未払金 | 4,342,603 | 1.5 | 1,511,780 | 0.6 | △2,830,823 | △65.2 |
| (3) 引当金 | 74,414 | 0.0 | 72,283 | 0.0 | △2,131 | △2.9 |
| (4) その他流動負債 | 36,686 | 0.0 | 37,150 | 0.0 | 464 | 1.3 |
| 5 繰延収益 | 98,570,036 | 35.2 | 96,477,982 | 35.3 | △2,092,054 | △2.1 |
| (1) 長期前受金 | 98,570,036 | 35.2 | 96,477,982 | 35.3 | △2,092,054 | △2.1 |
| 資 本 | 68,214,906 | 24.3 | 72,981,987 | 26.7 | 4,767,081 | 7.0 |
| 6 資本金 | 59,275,195 | 21.1 | 64,072,276 | 23.5 | 4,797,081 | 8.1 |
| 7 剰余金 | 8,939,712 | 3.2 | 8,909,712 | 3.3 | △30,000 | △0.3 |
| (1) 資本剰余金 | 8,519,601 | 3.0 | 8,519,601 | 3.1 | 0 | 0.0 |
| (2) 利益剰余金 | 420,110 | 0.1 | 390,110 | 0.1 | △30,000 | △7.1 |

(注) 当年度末における有形固定資産の減価償却累計額は 94,896,574 千円です。
また、当年度末における長期前受金の収益化累計額は 40,729,359 千円です。

(1) 資産

資産総額は 272,957,370 千円で、前年度末に比べ 7,458,674 千円・2.7%減少しています。これは、固定資産が 4,690,532 千円・1.7%、流動資産が 2,768,143 千円・44.4%それぞれ減少したためです。

主な固定資産は、構築物 219,030,241 千円、機械及び装置 18,940,221 千円で、前年度末に比べ、構築物は減価償却等に伴い 4,512,119 千円・2.0%減少し、機械及び装置は中地ポンプ場の大規模改築等に伴い 102,028 千円・0.5%増加しています。

主な流動資産は、現金及び預金 1,813,275 千円、未収金 1,628,372 千円で、前年度末に比べ、現金及び預金は 2,645,244 千円・59.3%、未収金は 123,745 千円・7.1%それぞれ減少しています。

現金及び預金の減少は、企業債の償還が次年度期首となった前年度と異なり、年度内に予定していた償還を終えたことによるものです。また、主な未収金は、未収下水道使用料 906,675 千円、未収前処理場使用料及び未収前処理汚水使用料 106,336 千円です。

(2) 負債

負債総額は 199,975,383 千円で、前年度末に比べ 12,225,755 千円・5.8%減少しています。主な負債は、固定負債と繰延収益です。

固定負債は、建設改良費等の財源に充てるための企業債のうち償還期間が1年超のもので、計画的な投資により、その残高は減少傾向にあり、91,509,759 千円です。

繰延収益は、償却資産の取得等に充てられた補助金等である長期前受金 96,477,982 千円です。なお、償却資産の減価償却に伴い、それに見合った金額を償却しています。

前年度末に比べ、固定負債は 7,367,129 千円・7.5%、繰延収益は 2,092,054 千円・2.1%それぞれ減少しています。

(3) 資本

資本総額は 72,981,987 千円で、前年度末に比べ 4,767,081 千円・7.0%増加しています。これは、一般会計出資金を資本金に受け入れたことによるものです。

(4) 資金収支

当年度の資金増減の状況は、第16表のとおりです。

第16表 運転資本増減表

(単位 千円)

| 区 分 | 30年度末 | 元年度末 | 対前年度増減額 |
|-------------------|-----------|-----------|------------|
| 流 動 資 産 A | 6,237,134 | 3,468,991 | △2,768,143 |
| 流 動 負 債 等 B | 4,453,703 | 1,621,213 | △2,832,490 |
| 累 積 資 金 剰 余 額 A-B | 1,783,431 | 1,847,778 | 64,347 |

(注) 流動負債等は、流動負債及び固定負債から、それぞれの企業債を除いたものです。

累積資金剰余額は、前年度末に比べ 64,347 千円増加し 1,847,778 千円となっています。これは、流動資産のうち現金及び預金が 2,645,244 千円減少したものの、流動負債

のうち未払金が 2,830,823 千円減少したことによるものです。

(5) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローの状況は、第17表のとおりです。

第17表 キャッシュ・フロー計算表

(単位 千円)

| 区 分 | 30年度末 | 元年度末 | 対前年度増減額 |
|--------------------|-------------|-------------|-------------|
| 業務活動によるキャッシュ・フロー A | 6,663,555 | 5,705,329 | △ 958,226 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー B | △ 3,456,651 | △ 5,358,842 | △ 1,902,191 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー C | △ 2,052,669 | △ 2,991,731 | △ 939,062 |
| 資金増加(減少)額 D=A+B+C | 1,154,236 | △ 2,645,244 | △ 3,799,480 |
| 資金期首残高 E | 3,304,284 | 4,458,520 | 1,154,236 |
| 資金期末残高 E+D | 4,458,520 | 1,813,275 | △2,645,245 |

業務活動によるキャッシュ・フローは 5,705,329 千円のプラスで、前年度に比べ 958,226 千円減少しています。また、投資活動によるキャッシュ・フローは 5,358,842 千円のマイナスで、前年度に比べ 1,902,191 千円減少し、財務活動によるキャッシュ・フローは 2,991,731 千円のマイナスで、前年度に比べ 939,062 千円減少しています。

この結果、当年度の資金（現金・預金）期末残高は期首残高に比べ 2,645,245 千円減少し 1,813,275 千円となっています。

キャッシュ・フローの状況は良好ですが、一般会計からの多額の繰入金によって実現されたものであり、経営基盤強化の取組みが引き続き必要です。

5 むすび

当年度の経営成績について、収益的収支の総収益と総費用は、いずれも消費税及び地方消費税抜額で 19,028,998 千円であり、前年度に比べ 340,435 千円減少しています。使用料収入は合計 9,140,223 千円で、前年度に比べ 3,542 千円増加しています。一般会計からの繰入金は合計 10,162,240 千円（うち収益的収入に係るものは 5,395,159 千円）ですが、前年度に比べ 86,852 千円減少しました。

財政状態について、当年度末の累積資金剰余額は 1,847,778 千円で、前年度末に比べ 64,347 千円増加しています。企業債残高は、前年度末に比べ 7,301,212 千円減少し 101,876,188 千円となっています。

本会計は、一般会計からの多額の繰入金によって経常収支の均衡を保っていますが、下水道事業においては、下水管や施設の老朽化対策及び近年の異常気象による豪雨に対する雨水排水対策など、今後も多額の投資を要することから、財源の確保と事業の重点化が重要な経営課題となっています。

平成 29 年 4 月の使用料改定後、使用料の増収及び一般会計繰入金の削減については、概ね順調に推移していますが、長期的に見れば、人口減少等により使用水量は減少傾向にあり、使用料収入の減少が予想されます。

これまでに、電力入札の実施等による経費の削減に取り組んでいますが、厳しい収益環境を踏まえ、より一層経営の効率化を図るとともに、使用料見直しによる増収等に努めてください。

また、令和元年度は重要事業のうち大的析水苑に係る運転管理業務を委託化し、家島浄化センターと清水苑に係る運転管理業務の包括的民間委託を導入されました。このような事業を含め下水道事業の効果的・継続的实施には、業務執行体制の確保・強化も必要と考えますが、職員数は経営戦略上の想定数を大きく下回る状況となっており、職員間の技術継承等の課題が危惧されます。人事異動や業務の委託化に伴う人的課題に留意し、人的資源の有効活用と業務執行体制の確保を図ってください。

令和 2 年度に実施される経営戦略の見直しの際には、長期的な収支状況を正確に把握し、経営基盤の強化及び重点的な事業の実施に取り組んでください。

決 算 審 査 資 料

財務諸表分析票

| | | |
|---|------------------|-------|
| 1 | 水道事業会計 | 1 3 0 |
| 2 | 都市開発整備事業会計 | 1 3 1 |
| 3 | 下水道事業会計 | 1 3 2 |

[財務諸表分析項目について]

| 分析項目 | 算式 | 備考 |
|---|---|---|
| <p>構成比率</p> <p>(1) 固定資産構成比率 (%)</p> <p>* 土地造成構成比率 (%)</p> <p>(2) 固定負債構成比率 (%)</p> <p>(3) 自己資本構成比率 (%)</p> | $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$ $\frac{\text{土地造成}}{\text{総資産}} \times 100$ $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$ | <p>(1) 総資産に対する固定資産（都市開発整備事業にあつては、土地造成）の占める割合を示したもので、比率が大であれば資本の固定化の傾向にあります。</p> <p>(2) 総資本と、これを構成する固定負債の関係を示すもので、比率が小さいほどよいとされています。</p> <p>(3) 総資本と、これを構成する自己資本の関係を示すもので、比率が大であるほど経営の安全性が大であるとされています。</p> |
| <p>財務比率</p> <p>(4) 固定資産対長期資本比率 (%)</p> <p>* 土地造成対長期資本比率 (%)</p> <p>(5) 流動比率 (%)</p> | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$ $\frac{\text{固定資産} + \text{土地造成}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債}} \times 100$ $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | <p>(4) 固定資産（都市開発整備事業にあつては、固定資産及び土地造成）の調達が自己資本と固定負債の範囲内で行われるべきであるとの立場から、少なくとも100%以下が望ましいとされています。</p> <p>(5) 1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較するもので、流動性を確保するためには、流動資産が流動負債の2倍以上あることが望ましいとされています。</p> |
| <p>回転率</p> <p>(6) 固定資産回転率 (回)</p> <p>* 土地造成回転率 (回)</p> <p>(7) 減価償却率 (%)</p> <p>(8) 流動資産回転率 (回)</p> | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均固定資産}}$ $\frac{\text{営業収益}}{\text{平均土地造成}}$ $\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$ $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均流動資産}}$ | <p>(6) 企業の取引量である営業収益と設備資産（土地造成）に投下された資本との関係で、設備利用（土地造成）の適否をみるためのものです。</p> <p>(7) 減価償却費を固定資産の帳簿価格と比較することにより、固定資産に投下された資本の回収状況をみるためのものです。</p> <p>(8) 現金預金回転率・未収金回転率などを包括するものであり、これらの回転率が高くなれば、それに応じて高くなるものです。</p> |

| | | |
|--------------------------------|--|---|
| (9) 現金預金回転率 (回) | $\frac{\text{当年度支出額}}{\text{平均現金預金}}$ | (9) 1年間に企業から流出した現金預金の総額と現金預金在高との関係であり、現金預金の流れの速度を測定するものです。 |
| (10) 未収金回転率 (回) | $\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{平均未収金}}$ | (10) 企業の取引量である営業収益と営業未収金との関係で、未収金に固定する金額の適否を測定するものです。 |
| 収益率 | | |
| (11) 総資本利益率 (%) | $\frac{\text{当年度純利益} \times 1}{\text{平均総資本}} \times 100$ | (11) 企業に投下された資本の総額と、それによってもたらされた利益とを比較したものです。 |
| (12) 総収益対 総費用比率 (%) | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | (12) 総収益と総費用を対比したもので、収益と費用の総合的な関連を示すものです。 |
| (13) 営業収益対 営業費用比率 (%) | $\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$ | (13) 業務活動によってもたらされた営業収益と、それに要した営業費用とを対比して業務活動の能率を示すもので、これによって経営活動の成否が判断されるものです。 |
| その他 | | |
| (14) 利子負担率 (%) | $\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{平均}(\text{企業債} + \text{長期借入金} + \text{一時借入金} + \text{リース債務})} \times 100$ | (14) 損益計算書が示す企業債利子を、貸借対照表に示された負債と比較することにより利子率を計算したものです。 |
| (15) 企業債償還額対 減価償却額比率 (%) | $\frac{\text{企業債償還額} \times 2}{\text{当年度減価償却費}} \times 100$ | (15) 企業債償還額とその主要償還財源である減価償却費を比較したものです。 |
| (16) 職員1人当たり 営業収益 (円/人) | $\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{損益勘定支弁職員数}}$ | |

(注) 1 上記の算式において用いた次の用語の意義(算出方法)は、次のとおりです。

- ・ 総資産 固定資産+流動資産+繰延資産+土地造成
- ・ 自己資本 資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益
- ・ 総資本 負債資本合計
- ・ 総収益 営業収益+営業外収益+特別利益
- ・ 平均 (期首+期末) ÷ 2
- ・ 期末償却資産 有形固定資産(償却未済額)+無形固定資産-土地-立木-建設仮勘定-電話加入権
- ・ 損益勘定支弁職員数 損益勘定支弁職員数の期中平均

2 *は、都市開発整備事業において用いる分析項目です。

3 ※1については、水道事業会計のみ、当年度経常利益で算出しています。

4 ※2については、繰上償還及び借換えに係る償還額を除きます。

1 水道事業会計

| 分 析 項 目 | | 2 9 年 度 | 3 0 年 度 | 元 年 度 |
|---------|---------------------------------|------------|------------|------------|
| 構 成 比 率 | 固 定 資 産 構 成 比 率 (%) | 89.6 | 89.3 | 89.1 |
| | 固 定 負 債 構 成 比 率 (%) | 24.7 | 24.2 | 23.3 |
| | 自 己 資 本 構 成 比 率 (%) | 71.9 | 73.4 | 73.8 |
| 財 務 比 率 | 固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率 (%) | 92.7 | 91.6 | 91.8 |
| | 流 動 比 率 (%) | 309.6 | 436.2 | 372.7 |
| 回 転 率 | 固 定 資 産 回 転 率 (回) | 0.15 | 0.14 | 0.14 |
| | 減 価 償 却 率 (%) | 4.58 | 4.47 | 4.40 |
| | 流 動 資 産 回 転 率 (回) | 1.26 | 1.21 | 1.15 |
| | 現 金 預 金 回 転 率 (回) | 4.00 | 3.71 | 3.49 |
| | 未 収 金 回 転 率 (回) | 5.11 | 5.07 | 4.98 |
| 収 益 率 | 総 資 本 利 益 率 (%) | 2.2 | 2.3 | 1.9 |
| | 総 収 益 対 総 費 用 比 率 (%) | 118.2 | 119.2 | 116.3 |
| | 営 業 収 益 対 営 業 費 用 比 率 (%) | 111.4 | 112.5 | 109.6 |
| そ の 他 | 利 子 負 担 率 (%) | 1.9 | 1.8 | 1.7 |
| | 企 業 債 償 還 額 対 減 価 償 却 額 比 率 (%) | 34.7 | 37.4 | 38.3 |
| | 職 員 1 人 当 たり 営 業 収 益 (円) | 91,590,657 | 93,164,309 | 92,468,756 |

2 都市開発整備事業会計

| 分 析 項 目 | | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|-------------|-----------------|--------|-------|-------|
| 構成比率 | 土地造成構成比率 (%) | 3.7 | 1.9 | 1.0 |
| | 固定負債構成比率 (%) | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 自己資本構成比率 (%) | 100.0 | 99.9 | 99.8 |
| 財務比率 | 土地造成対長期資本比率 (%) | 14.2 | 12.9 | 17.2 |
| 回 転 率 | 土地造成回転率 (回) | 0.73 | 1.61 | 1.32 |
| | 現金預金回転率 (回) | 0.01 | 0.04 | 0.07 |
| | 未収金回転率 (回) | 249.77 | 10.77 | 4.55 |
| 収 益 率 | 総資本利益率 (%) | 0.4 | 0.7 | 0.3 |
| | 総収益対総費用比率 (%) | 111.1 | 118.8 | 114.8 |
| | 営業収益対営業費用比率 (%) | 115.7 | 124.2 | 132.2 |

3 下水道事業会計

| 分 析 項 目 | | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|------------------|--------------------|-------------|-------------|-------------|
| 構 成 比 率 | 固定資産構成比率 (%) | 98.2 | 97.8 | 98.7 |
| | 固定負債構成比率 (%) | 37.3 | 35.3 | 33.5 |
| | 自己資本構成比率 (%) | 57.9 | 59.5 | 62.1 |
| 財 務 比 率 | 固定資産対長期資本比率 (%) | 103.2 | 103.2 | 103.3 |
| | 流動比率 (%) | 37.0 | 42.3 | 28.9 |
| 回 転 率 | 固定資産回転率 (回) | 0.04 | 0.04 | 0.04 |
| | 減価償却率 (%) | 3.87 | 3.94 | 3.97 |
| | 流動資産回転率 (回) | 2.47 | 1.96 | 2.26 |
| | 現金預金回転率 (回) | 8.74 | 6.18 | 8.91 |
| | 未収金回転率 (回) | 6.48 | 6.24 | 6.41 |
| 収 益 率 | 総資本利益率 (%) | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 総収益対総費用比率 (%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | 営業収益対営業費用比率 (%) | 65.2 | 66.4 | 65.6 |
| そ の 他 | 利子負担率 (%) | 2.4 | 2.3 | 2.1 |
| | 企業債償還額対減価償却額比率 (%) | 97.9 | 96.6 | 97.7 |
| | 職員1人当たり営業収益 (円/人) | 147,182,913 | 148,515,579 | 163,515,129 |